

3-2. 「パターンランゲージ」の使い方

パターンランゲージの活用方法

本パターンランゲージは A4 版でまとめているが、左上のグレーに着色された部分で切り取り、28 枚のアクションカードとして利用することで、プレイスメイキングの検討に向けた整理するのに役立つ。下記では、具体的な使い方のシーンを提案する。

●場所ごとにできるアクションを検討する際に

【8つの場所ごとに】どんなアクションができるか並べかえ、具体的な場所でのアクションを定めていく。

●やってみたいアクションから始めるために

28 枚のカードを並べて【アクション名】を見比べ、どれができるか・やってみたいかを検討する。また、空白のカードも活用し、新たなアイデアを自由に追加することもできる。

●自身の状況を整理するために

個人もしくは団体は、それぞれが関わることのできるアクションは何か、【関係者】ごとに並び替え、アクションの実施時の情報を整理する。また、アクション実施のための連携パートナーを探し、協力を得るための戦略を考えることも重要である。

●空間状況の整理に使う

アクションを起こしたい空間が公共用地である場合、道路、公園、空地、広場のどの【空間タイプ】に該当するか確認し、当てはまるカードを並べできるアクションを整理していく。

●実施に向けたリソースを検討する

空間を「プレイス」に変えるためのアクションは、数ヶ月でできるものと、数年の間、継続的に取り組む必要があるものがある。希望のアクションを実施するために、どのくらいの【期間】で改善できるのか確認する。

また、必要な資金や活用できる制度は何か、A4 版右下部分に掲載している【アクションの概要・課題、活用できる制度、参考となる事例】を確認することも重要である。



図3-4. 使い方のイメージ

3-3. 「パターンランゲージ」の内容

パターンランゲージの掲載情報

各主体は実施するアクションのパターンを選定した後、アクション実施にむけた関係各所との調整や戦略立てを行う。本パターンランゲージには、その過程において参考となる情報を整理している。

アクションの要素

アクションの名前及び具体的な場所とその空間タイプ、実施期間、実施する際の関係者、結びつく未来像を示している。

- ① 空間タイプ
- ② 検討から実施までの期間
- ③ 実施する際の関係者
- ④ 三軒茶屋周辺具体的な場所
- ⑤ 結びつく未来像

アクションの情報

アクションの社会的背景や実施する意義や、プレイス・ゲームにおいて参加者から得られた意見、アクション実施がその解決に資する現状の三軒茶屋駅周辺エリアの課題を示している。

- ⑥ 社会的背景
- ⑦ 三軒茶屋駅周辺エリアの課題
(プレイスゲームで出た意見など)
- ⑧ プレイスゲームで出たアイデア
- ⑨ アクションの概要
(具体的な説明、取り組み)
- ⑩ アクションの課題
(実行する上での課題、留意点など)

アクションの情報

アクションの実施において関連する施策や制度、参考となる事例を示している。これらは、アクション実施の際の新たな制度整備や取り組みの参考として示している。

- ⑪ 関連する施策や制度
※世田谷区の行政計画と必ずしも整合性を図っているものではない。
- ⑫ 参考となる事例
※プレイスメイキングの検討において、アクションアイデアの参考になる制度。⑪関連施策や制度とは関連していないので要注意。



図3-5. パターンランゲージにおける掲載内容

3-3. パターンランゲージの内容

居心地のよい空間	
1. セットバックによる滞留空間・テラス空間の創出	116
2. ベンチ等の座る場所の設置	117
3. イベント可能な広場の整備	118
4. 滞留空間の社会実験	119
5. 滞留空間の整備	120
6. 公園の芝生化	121
魅力向上	
7. 文化的イベントの実施	122
8. イベントの実施	123
9. 地域情報発信を目的とした情報の掲示	124
10. 沿道店舗の商業誘致	125
11. 喫煙所の移設	126
12. 看板デザインの工夫	127
交通利便性	
13. 自転車専用道の整備	128
14. 歩行空間の整備	139
15. 歩行者天国化	130
16. 車両規制時間の変更	131
17. 駐車場整備	132
18. 案内板の設置	133
景観づくり	
19. 花や木を植える	134
20. 無電柱化整備	135
21. 壁面アート	136
多様な活動	
22. 公園利用のルール	137
23. 路上ライブの許可	138
未利用地活用	
24. 路地の活用	139
25. 周辺ランドスケープとの調和	140
安心安全	
26. 照明整備	141
地域参画・交流	
27. 大学生と地域の交流イベントの創出	142
地域持続可能な仕組み	
28. 企業広告による収入化	143

索引の見方

アクションの方向性	
XX. パターンの名称	YY
XX：パターンランゲージの番号 (PLno.)	
YY：パターンランゲージの掲載ページ	

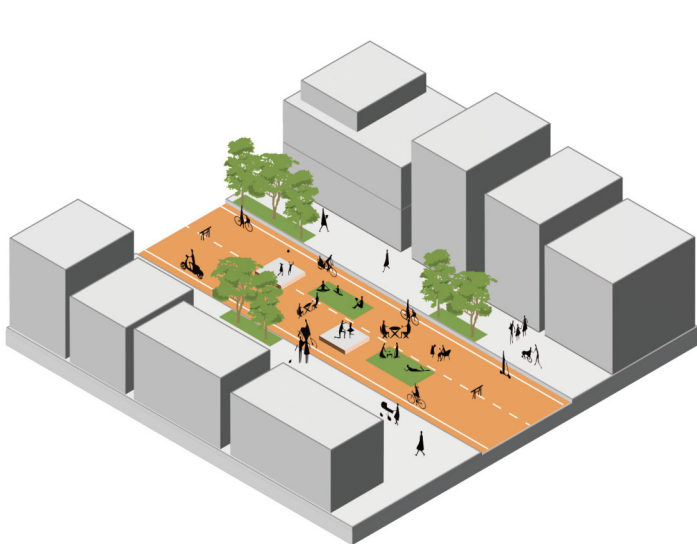


図3-6. 滞留空間の社会実験 (PLno.4) のイメージ

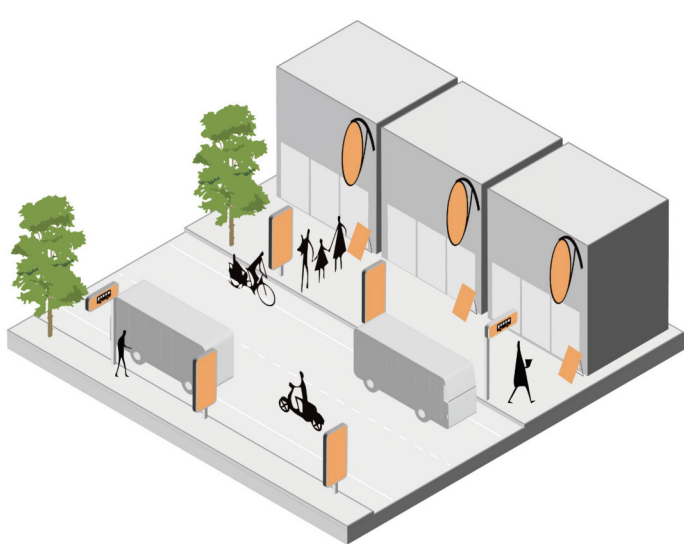


図3-7. 看板デザインの工夫 (PLno.12) のイメージ



図3-8. 花や木を植える (PLno.19) のイメージ

pattern language

1/28

01

セッ
トバ
ック
による
テラス
空間の
創出・

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#栄通り#茶沢通り
#キャロットタワー裏通り

三茶

9つの未来像との結びつき

2個性豊かな店が通りを彩るまち
4くつろぎの空間が育まれるまち
5誰でも気軽に出かけられるまち
8暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち

○アクションの背景

都市部では、建物の密集化に伴い、通風や日照の阻害、緑地の減少などの住環境の劣化が見られる。これに対し、建物間に一定の空間を確保することで、十分な通風、日照確保、緑化の促進が可能となる。

さらに、セットバックした空間で休憩スポット等を提供することで、都市の生活環境の質が向上し、住民のQOL向上に寄与することに期待ができる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では、歩道ギリギリに沿道店舗の商品や看板が並んでいる箇所が散見され、歩きやすさに課題がある。また、一部の道路では暗い雰囲気があるなど、日照確保によるイメージ改善の必要がある。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋
上図：路肩にはみ出して並ぶ沿道店舗の看板
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

お店の
セットバック
をする！

建物を
セットバックさせて
民地活用をおこなう！

○概要

建物が道路空間に近接する道路において、建物のセットバックを長期的に誘導し、生まれた空間を滞留スポットや商業利用の空間として活用する。建物のセットバックを行うにあたって、地域コミュニティの理解・協力や都市計画の策定・変更の必要があるため、公開ミーティングや意見交換の場を設けることで、地域住民の意見を積極的に反映させた計画の策定・変更を目指す。

○課題

建物のセットバックには、建築基準法や条例など関連するの法規制の適切な整備が欠かせない。設定基準の遵守を義務付ける必要や長期的な計画必要であるため、沿道のステークホルダーとの綿密かつ継続的な協議が不可欠である。

○関連する制度や施策

①まちなかウォーカブル推進事業

車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的とした取組を重点的・一体的に支援する事業である。沿道景観の形成においては、魅力的な建築デザインの配置や、看板や案内表示の適切な配置、ベンチ等の整備が対象となる。なお、セットバックを義務付ける法的根拠は有していないため、地区計画等の都市計画との併用が必要である。

②街並み環境整備事業

住環境の整備改善を必要とする区域において、行政やまちづくり協定を結んだ住民が協力し実施する、美しい景観の形成・良好な居住環境の整備を支援する事業である。建築外観の修景だけでなく、協議会の活動等も助成対象である。なお、セットバックを義務付ける法的根拠は有していないため、地区計画等の都市計画との併用が必要である。

○参考になる事例

新潟県南魚沼市「牧之通り」

南魚沼市と地元住民による「牧之通り組合」による、街並み整備である。道路改良を機に、沿道の建築物の外観・意匠の統一、色彩制限、さらには2メートルのセットバック空間に雁木を設置するなど、独自の建築協定を設け、統一感のある特徴的な景観を形成した。事業は、南魚沼市と地元組合の公民一体で推進され、現在は、地元組織が主体となって多彩なイベント活動が実施され、道路空間を活用した交流活動が行われている。

図：街並み整備後の「牧之通り」
(出典：https://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/docs/1053.html)

図：セットバックによる歩道の活用

pattern language

2/28

02

ベンチ
等の
座る
場所の
設置

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#三茶パティオ#キャロットタワー広場
#キャロットタワー裏通り
#三角地帯前面の道路

三茶

9つの未来像との結びつき

4くつろぎの空間が育まれるまち
5誰でも気軽に出かけられるまち
7災害に強く、安心・安全なまち

○社会的背景

ベンチ等の座れる場所の設置は、高齢化社会の進行と快適な公共空間への需要の増加に伴い、安全で快適な外出の支援や広域な住民の公共の場での休憩スペース提供等の観点から求められている。また、公共交通機関を利用する際の待機場所として機能する等、利便性の向上や公共空間の活性化にも寄与し、都市の魅力を高めることが期待できる

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では、座る場所がなく休めないなど、移動途中での休憩スポットが求められている。また、広場は移動のための空間となり滞留性がないため、広域の住民に開かれた空間としての魅力を活かしきれていない。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋
上図：座る場所のない広場
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

気軽に座れる
場所の設置！

ガードパイプを
外してベンチを置く！

コミュニティが
生まれるような
ベンチの
アップデート！

○概要

地域の人々が利用する主要な道路や広場、バスを待つため、目に人々が集まるバス停付近などを対象としてベンチの設置を行う。デザインに関しては、ユニバーサルデザインの原則に従い、高齢者や障がい者も利用しやすい高さやアクセス性を考慮する。加えて、視覚的な魅力や周囲の景観に調和したデザイン、維持管理の方針を地域コミュニティと共に検討する。

○課題

道路空間のベンチ等の設置には、「道路占用許可」の取得と許可部局との調整が欠かせない。設置による交通安全への影響等に関して、交通管理者との十分な協議が不可欠である。

○関連する制度や施策

①ユニバーサルデザイン生活環境整備補助金

世田谷区の「ユニバーサルデザイン推進条例」による、高齢者や障害者などすべての人が利用しやすい環境を整備することを目的とした補助金支援施策である。商店、商店街、社会福祉法人等が対象であり、ベンチの購入費またはベンチ製作費に対し、その全額が補助される（上限あり）。

ただし、敷地内に設置するベンチが補助対象となっており、道路上には設置ができない。

②歩行者利便増進道路（ほこみち）制度

賑わいある道路構築のための道路の指定制度である。本制度によって道路管理者が指定した道路では、歩行者の利便増進を図る空間を設けることができ、利便増進誘導区域を指定することで道路占用許可が柔軟に認められる。また、道路占用者を公募により選定した場合には、最長20年の道路占用許可が可能となる。

○参考になる事例

群馬県高崎市「高崎ストリートベンチプロジェクト」

高崎駅西口の東二条通り「チームハナハナストリート」、大手前慈光通り商店街、大手前通りの3つの商店街が連携した事業である。3つの商店街のあちこちにアートベンチを設置し、街を歩く人たちの休憩場所としての利便性向上と、アートを見ながら買い物やまち歩きを楽しむんでもらうのが狙いである。成果として、3つの商店街が協力することで新たなアイデアが生まれ、街の回遊性および景観の向上に寄与し、多くの人がまちを知るきっかけとなった。

図：個性的なベンチ
(出典：https://www.syoutengai-shien.com/case/rpt-9299/)

図：地元小学生も作成に参加

116

117

pattern language

3/28

03

可能なイベント実施が
広場整備



空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#茶沢通り



9つの未来像との結びつき

○社会的背景

人々が集まり、交流し、文化的活動を楽しむスペースへの需要が高まっている。特に広場は、様々なイベント実施に理想的な空間であり、地域コミュニティの結束の強化や文化的な多様性を促進するため、適切な整備が必要である。さらに、イベント用広場の整備は、観光客の誘致や地元ビジネスの支援等の経済的な発展においても重要な役割を担うことが期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺には広場自体が少なく、イベントに制約のあるものも多いため、広範な住民に開かれた空間としての魅力を活かしきれていない。また、イベントの実施は休日に留まり、平日は活用されていないため、日常的な賑わいに寄与していない課題がある。

※ハイライトはプレイスゲーム意見 上図：平日の利用が少ない広場の抜粋 (出典：平日撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

ふれあい広場のような空間を増やす！

○概要

イベントに必要な設備（電源、照明、音響設備、ステージ等）を整え、様々な用途に対応できるよう、機能性の高い広場を形成する。

さらに、日常的なイベント実施につながるよう、行政と地域コミュニティの連携のもと、定期的なメンテナンス、清掃、イベントスケジュールの管理等、継続的な運営体制の構築を行う。

○課題

新たなイベント空間の整備には、街区再編等によるオープンスペースの確保が必要である。建築の更新を伴うため、地権者や周辺のステークホルダーとの十分な協議が必要不可欠である。また、広場に隣接する住民の合意も必要である。

○関連する制度や施策

①街区再編まちづくり制度

密集市街地等のまちづくりの様々な課題を抱える地域において、細分化された敷地の統合や行き止まり道路の付替えなどを行いながら、共同建替え等を進めることにより、魅力ある街並みの実現を目指す制度である。具体的には、不規則な土地利用や狭い道路を整理し、イベント実施可能な広いオープンスペースを確保することが可能である。

②都市利便増進協定

地域のまちづくりルールを地権者や都市再生推進法人らが自主的に定め、運用するための協定制度である。協定を締結するにあたり、イベント実施時の管理等も含めた、施設の整備・管理について記載する。加えて、施設の運用で得られる収益により、質の高い公共空間の整備・管理、持続的なイベントの実施が可能となる。

○参考になる事例

北海道札幌市「札幌市北3条広場（アカプラ）」

札幌市と民間事業者による、道路空間をイベント実施可能な広場空間へと整備した事例である。2004 年より、モール化を検討する社会実験を実施し、2014 年に広場としての整備が完了した。

広場の管理体制や柔軟な活用を図るために、市独自で「札幌市北3条広場条例」を制定した。この条例において広場を公の施設に定め、具体的な使用時間や使用料、禁止事項等を盛り込むことで、広場としての管理運営を可能とした。



図2. 広場として整備された空間 (出典：https://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/579)

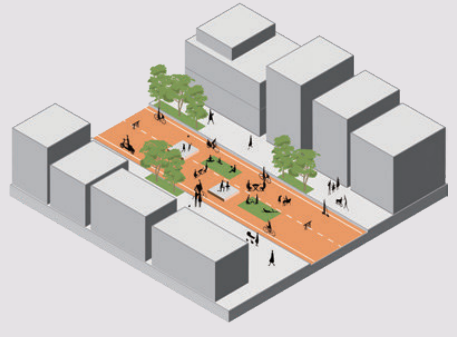
図3. イベント実施時の様子 (出典：https://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/579)

pattern language

4/28

04

社会実験
滞留空間の



空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#栄通り#茶沢通り
#キャロットタワー裏通り



9つの未来像との結びつき

○社会的背景

全国的にも車中心から人中心に向けた取組みとして、ウォーカブルまちづくりが推進されている。ウォーカブルなまちづくりを進めていくうえでは、まちなかの滞在快適性・回遊性を向上する必要がある。

道路などの公共空間を都市の余白となる貴重な地域資源と捉え、社会実験を実施し、活用することにより人々の交流機会の創出に寄与することを期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では、ベンチ等が少なく、休憩できる場所がないなど、カフェ等の屋内休憩施設以外での滞留場所が求められている。また、置き看板や放置駐輪が道路に無秩序に配置されている箇所が見られ、通行や滞留に課題がある。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋 上図：無秩序な放置駐輪 (出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

歩行者天国にしてベンチを置く！

歩行者天国時に色々なアイデアを試してみる！

イス・机・キッチンカー・芝生などを置く！

○概要

仮設のベンチ等、道路空間における滞留空間に係る社会実験を実施する。仮設の滞留空間の設置にあたっては、多種多様の交通モード秩序の基、安全な滞留と通行の分配を検討する。また、併せて既存の歩行支障物となっていたものも仮設物の一部に整理できるように取り入れる。仮設物の形態は、使用状況と社会実験に対する意見に基づき、安価で簡易的な仮設物から実験を進める。

○課題

道路空間の社会実験には、「道路占用許可」「道路使用許可」の取得と許可部局との調整が欠かせない。道路空間を通行機能と異なる使い方をするため、沿道のステークホルダーとの十分な協議が不可欠である。

○関連する制度や施策

①まちなかウォーカブル推進事業

車中心から人中心の空間へと転換を図る範囲において、市区町村や民間事業者が主体となって実施する、「居心地がよく歩きたくなる」空間を実現するための社会実験等の取り組みを、補助金によって支援する。また、道路の広場化や道路上の座り場の設置等のハード整備や、そのデザイン検討も支援対象となるため、社会実験の成果から、その後のハード整備へと繋げることができる。

②歩行者利便増進道路（ほこみち）制度

賑わいのある道路の構築のための道路の指定制度である。本制度によって道路管理者が指定した道路では、歩行者の利便増進を図る空間を設けることができ、利便増進誘導区域を指定することで道路占用許可が柔軟に認められる。社会実験を通じて、適切な区域の指定箇所や占用物件の管理・運営を検証することで、本制度の活用へと繋げることができる。

○参考になる事例

静岡県沼津市「OPEN NUMAZU 2022 ARCADE」

沼津市と沼津仲見世商店街振興組合、UR都市機構による商店街活性化の社会実験である。まちなかの公共空間や資源を活用し生まれる風景を日常へとつなげ、ヒト中心のまちなかを創出する取組みとして実施された。アーケード下や空き店舗を滞留空間として活用し、周辺イベントと連携して来訪者の行動変容を調査した。実験の成果として、商店街周辺の事業者や施設にもその効果の波及が確認でき、沼津市は商店街と連携して居心地の良い空間づくりを進めている。



図2. 店先でのイスやテーブルの設置 (出典：https://www.ur-net.go.jp/news/20230630_cyubu_numazu.html)

図3. 商店街周辺の店舗からの出店 (出典：https://www.ur-net.go.jp/news/20230630_cyubu_numazu.html)

118

119

pattern language

5/28

05

の滞留空間の整備

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#西太子堂公園
#三角地帯前面の道路

三茶の未来像との結びつき

4くつろぎの空間が育まれるまち
5誰でも気軽に出かけられるまち
7災害に強く、安心・安全なまち

○社会的背景

全国的にも車中心から人中心に向けた取り組みとして、ウォーカブルまちづくりが推進されている。ウォーカブルなまちづくりを進めていくうえでは、まちなかの滞在快適性・回遊性を向上する必要がある。
まちなかに滞留空間を提供することは、住民のコミュニティ形成促進や都市の美観向上への寄与に期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺では、人が立ち止まる場がないなど、屋内休憩施設以外での滞留場所が求められている。
また、公園においては、公園内や近隣に商業施設がないため、滞在を促すサービスの提供に関しても課題がある。
※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋
上図：座る場所のない広場
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

滞留スポットをつくる！
電車を見るための広場をつくる！
(カフェ等飲食ができる場所も)

○概要

道路においては、社会実験や調査等を踏まえ、適切な場所に滞留空間を整備し、さらに滞留空間を点在させることでまちなかの滞在快適性・回遊性を高める。
また、滞留空間内もしくは周辺に滞在を促すサービスを提供可能な店舗等を誘致し、民間開発等を契機として、高質な滞留空間を整備することも、まちなかの滞在快適性・回遊性を向上するうえで効果的である。

○課題

高質な滞留空間実現には、長期的な維持管理の仕組みも含めた整備の実施が欠かせない。整備の企画段階から、地域コミュニティや事業者等と充分に協議し、積極的に整備計画へ反映させることが必要である。

○関連する制度や施策

①公募設置管理制度（Park-PFI）
都市公園において、民間資金等を活用した公園利用者の利便の向上、公園管理者の財政負担の軽減を目的として、飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を、公募によって選定する手続きである。事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特別措置がインセンティブとして適用される。
②道路占用許可の特例（都市再生特別措置法）
通常、道路外に余地がなくやむを得ない場合に限り、許可をする道路占用における無余地性の基準について、区市町村がまちのにぎわい創出等のために必要であるとして、都市再生整備計画に位置づけた施設等は、一定の要件を満たすことで無余地性の基準の適用が除外されるという制度である。通常の道路占用より簡易な手続きで許可が得られる。

○参考になる事例

神奈川県横浜市「元町パークレット」
元町エスエス会により行われた、車道上駐車帯の一部を転用し、ベンチと植栽が一体となった人のための滞留空間「パークレット」を設置した国内初の事例である。来街者がいつでもくつろげる滞留空間を整備し、横浜元町で過ごす新たな価値を創造することでイベント等の効果を最大化するとともに、日常時の滞在時間を延ばすことを目的として、商店街の通り沿いに3箇所設置されている。整備にあたっては、道路管理者及び所轄警察署と細部まで協議が実施された。

図：歩道に面し車道の一部を整備

図：ベンチと植栽が一体となった設計

(出典：https://stgkjp.jp/projects/motomachi-parklet/)

pattern language

6/28

06

芝公園の芝生化

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#三軒茶屋ふれあい広場
#西太子堂公園

三茶の未来像との結びつき

4くつろぎの空間が育まれるまち

○アクションの背景

近年、居心地のよい都市空間の形成やこどもや子育て世帯が安心・快適に日常を過ごせる環境整備が推進されている。公園や広場を芝生化により、こどもが安全に遊べる場、地域住民が集まりやすく快適に過ごせる開かれた空間を提供することは、地域の健康増進、環境改善、コミュニティ形成を促進することに寄与する。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の公園や広場は、緑が少ない現状であり、緑化による環境の改善が望まれている。また、滞在場所が不足しているという課題も挙げられ、地域に開かれた空間として整備し、滞在快適性の向上を図る必要がある。
※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋
上図：コンクリートで舗装された広場
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

大人も寝れるような芝生化をする！
小学生や地域のみんなでコンクリートをはがし、芝生広場に変えていく

○概要

芝生化するエリアの規模や形状、使用目的等に応じた計画の立案を行う。立案にあたっては、人工芝を敷く社会実験や住民参加でのデザイン検討の実施により、ニーズの把握や整備後の管理主体の醸成を図る。加えて、継続的な芝生管理の仕組み構築や良質な芝生空間形成のため、専門家の意見を取り入れることも重要である。

○課題

初期費用が高いため、気候や土壌の条件に合った芝の選択が重要である。また、公民が連携した芝生の維持管理の仕組みを構築するため、地域コミュニティや公園に面するステークホルダーとの協力が欠かせない。

○関連する制度や施策

①まちなかウォーカブル推進事業
車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者等が実施する、道路・公園・広場等の整備や修復・利活用、滞在環境の向上に資する取組を重点的・一体的に支援し、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業である。ハード整備に加え、デザイン検討の社会実験や調査等も支援の対象である。
②グリーンインフラ活用型都市構築支援事業
官民連携・分野横断により、積極的・戦略的に緑や水を活かした都市空間の形成を図るグリーンインフラの整備を支援する事業である。社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取り組みが対象である。

○参考になる事例

岡山県岡山市「下石井公園芝生化プロジェクト」
岡山市の既存の公園のグラウンドを全面天然芝生化したプロジェクトである。2021年11月に人工芝を敷く社会実験を48日間実施し、市民からの好評を受け、天然芝生化のリニューアルが決定した。決定後は、市民参加型のデザインミーティングを実施し、2023年7月にグラウンド東側半面の天然芝生化が完成した。芝生化により、市民の憩いの場として親しまれる空間となり、岡山市の公民連携による賑わい創出、地域が主体的にまちづくりの気運を醸成するきっかけとなった。

図：天然芝生化した公園

図：市民の憩いの場へ

(出典：https://machi-jikan.jp/420/)

120

121

pattern language	7/28
07 の 実 施 文 化 的 イ ベ ン ト 空間タイプ 道路公園空地広場 期間 短期中期長期 関係者 行政区民事業者町会商店街大学 場所 #三茶パティオ 9つの未来像との結びつき 2個性豊かな店が彩るまち ○社会的背景 公共の場で芸術や音楽を共有することは、異なる背景や文化を持つ人々がお互いの文化を理解し、尊重する絶好の機会である。 また、地域の芸術家が広く知られるきっかけとなり、地域の文化や芸術の発展を促進するだけでなく、人々の文化活動参加の間口が広がり、教育や社会、経済において多様な機能や役割を果たすことにつながる。 ○三軒茶屋駅周辺エリアの課題 三軒茶屋駅周辺では、多様なニーズに応え得る空間として機能していないため、地域の文化が表現される空間が必要である。また、イベントや行事が少ない状況であり、地域性が現れるイベントの実施が望まれている。 ※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋 上図・イベントや行事に利用されていない広場 (出典：プレイスゲーム実施時の撮影) ○プレイス・ゲームで出たアイデア 音楽イベントの実施！ 噴水を活用したイベントの実施！ 噴水を利用したプロジェクションマッピング等の実施！ ○概要 地元の芸術家やパフォーマーにパフォーマンスの場を提供し、地域住民や来街者に様々な文化体験を提供する。加えて、住民参加型のワークショップ等を通じて、参加者が文化を体験し、学ぶ機会を提供する。 また、地域の活性化及び経済活性に最大限寄与するため、効果的なプロモーション、予算管理、会場の選定を地元団体や企業との連携のもと行う。 ○課題 実施主体は、資金調達に加えて、イベントを開催する屋外空間の許可所得が課題となる。関係部局との十分な協議を行い、継続的にイベント実施を行う連携体制を構築することが必要である。 ○関連する制度や施策 ①東京のしゃれた街並みづくり推進条例 まちづくり団体の登録制度（東京都） 公開空地の活用を通じて地域の特性を活かし、まちづくり活動を促進する制度である。公開空地において、営利目的のイベントを主体的に行う団体を登録し、活用内容、活用期間、事前申請の手続き等を緩和し、その活動を促進することで、民間活力を用いて地域魅力を高めることができる。 ②ヘブンアーティスト事業（東京都） 東京都が主催する文化振興プログラムで、公共の場所でアートと音楽のパフォーマンスを展開することを目的としている。ライセンスが発行されたアーティストには、自分たちの芸術を披露する機会が継続的に提供される。市民が日常的に多様な文化体験に触れる機会を提供している。アーティストと市民の間の継続的な関係を築き、都市文化の発展に寄与していると言える。 ○参考になる事例 東京都千代田区「お茶の水アートピクニック」 毎年10月に東京都JR御茶ノ水駅前において、道路と公開空地の空間を活用し実施されている、野外アート・音楽イベントである。近隣大学の学生やプロのクリエイター、地域の方々も加わり、公共空間においてアート空間を創出している。参加者の個性豊かな企画・作品・公演が披露され、来場者も一体となった文化的空間が形成されている。毎年多くの人が来場し、多様な人々がアートを気軽に楽しみ、交流する機会を通じて、地域のQOL向上に寄与している。 図. 出店者の数だけ異なる出店内容 (出典：作成主体による撮影) 図. 道路をキャンパスとして活用	08 の 実 施 イ ベ ン ト 空間タイプ 道路公園空地広場 期間 短期中期長期 関係者 行政区民事業者町会商店街大学 場所 #三茶パティオ#キャロットタワー広場 #キャロットタワー裏通り 9つの未来像との結びつき 1歴史を継承しアートを生み出すまち 2個性豊かな店が通りを彩るまち 8暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち ○社会的背景 高密度化が進む都市部において、地域コミュニティを強化し、地域の活性化を図る重要な手段である。特にイベントの開催は人々を物理的に集め、共有体験を通じて社会的なつながりを形成することに寄与する。 また、地域経済への貢献や文化的多様性の促進する側面も有しており、都市における住民の生活の質の向上に寄与することが期待できる。 ○三軒茶屋駅周辺エリアの課題 三軒茶屋駅周辺の屋外空間では、イベントが少ないもしくはできないなど、継続的なイベントの実施が望まれている。また、空間として一体的な印象を感じないなど、地域の一体的なコミュニティ形成には課題がある。 ※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋 上図・イベント実施の少ない屋外空間 (出典：プレイスゲーム実施時の撮影) ○プレイス・ゲームで出たアイデア 三軒茶屋全体で連携したイベントの実施！ 手軽な小規模イベントをたくさん起こす！ 茶沢通りの社会実験と連携したイベント実施！ ○概要 継続的なイベントの実施が求められているため、低コストかつ効率的な企画・運営が可能なイベントから始める。実施に際しては、地域コミュニティと協力し、地元住民や事業者を巻き込むことにより、地域全体の活性化を目指す。 さらに、継続的にイベントを実施する過程で、関係部局との連携強化や情報発信の効果の最大化、運営方法のノウハウを蓄積していく。 ○課題 実施する公共空間に応じた、許可の取得が必要である。特に道路空間での実施には、「道路占用許可」「道路使用許可」の取得が欠かせないため、許可部局との連携強化が重要である。 ○関連する制度や施策 ①東京のしゃれた街並みづくり推進条例 まちづくり団体の登録制度（東京都） 公開空地の活用を通じて地域の特性を活かし、まちづくり活動を促進する制度である。公開空地において、営利目的のイベントを主体的に行う団体を登録し、活用内容、活用期間、事前申請の手続き等を緩和し、その活動を促進することで、民間活力を用いて地域魅力を高めることができる。 ②都市利便増進協定 地域のまちづくりルールを地権者や都市再生推進法人らが自主的に定め、運用するための協定制度である。協定を締結するにあたり、イベント実施時の管理等も含めた、施設の整備・管理について記載する。加えて、施設の運用で得られる収益により、質の高い公共空間の整備・管理、持続的なイベントの実施が可能となる。 ○参考になる事例 岐阜県岐阜市「サンデービルディングマーケット」 「サンデービルディングマーケット」は、柳ヶ瀬商店街の活性化を目的とした定期開催（毎月第3日曜日）のイベントである。「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」によって運営され、地元の商店主が自発的に参加している。主な内容としては、飲食や物販を含む100店舗以上が参加する市場の開催や、様々なカテゴリーの出店がある。この取り組みにより、新しい客層の獲得や、地域経済の活性化に効果をもたらしている。 図. 日常をテーマにしたマルシェ (出典：http://ysbmkt.com/) 図. 「ここにしかない、ひと・もの・空間」をテーマにしたマーケット

pattern language	8/28
08 の 実 施 イ ベ ン ト 空間タイプ 道路公園空地広場 期間 短期中期長期 関係者 行政区民事業者町会商店街大学 場所 #三茶パティオ#キャロットタワー広場 #キャロットタワー裏通り 9つの未来像との結びつき 1歴史を継承しアートを生み出すまち 2個性豊かな店が通りを彩るまち 8暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち ○社会的背景 高密度化が進む都市部において、地域コミュニティを強化し、地域の活性化を図る重要な手段である。特にイベントの開催は人々を物理的に集め、共有体験を通じて社会的なつながりを形成することに寄与する。 また、地域経済への貢献や文化的多様性の促進する側面も有しており、都市における住民の生活の質の向上に寄与することが期待できる。 ○三軒茶屋駅周辺エリアの課題 三軒茶屋駅周辺の屋外空間では、イベントが少ないもしくはできないなど、継続的なイベントの実施が望まれている。また、空間として一体的な印象を感じないなど、地域の一体的なコミュニティ形成には課題がある。 ※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋 上図・イベント実施の少ない屋外空間 (出典：プレイスゲーム実施時の撮影) ○プレイス・ゲームで出たアイデア 三軒茶屋全体で連携したイベントの実施！ 手軽な小規模イベントをたくさん起こす！ 茶沢通りの社会実験と連携したイベント実施！ ○概要 継続的なイベントの実施が求められているため、低コストかつ効率的な企画・運営が可能なイベントから始める。実施に際しては、地域コミュニティと協力し、地元住民や事業者を巻き込むことにより、地域全体の活性化を目指す。 さらに、継続的にイベントを実施する過程で、関係部局との連携強化や情報発信の効果の最大化、運営方法のノウハウを蓄積していく。 ○課題 実施する公共空間に応じた、許可の取得が必要である。特に道路空間での実施には、「道路占用許可」「道路使用許可」の取得が欠かせないため、許可部局との連携強化が重要である。 ○関連する制度や施策 ①東京のしゃれた街並みづくり推進条例 まちづくり団体の登録制度（東京都） 公開空地の活用を通じて地域の特性を活かし、まちづくり活動を促進する制度である。公開空地において、営利目的のイベントを主体的に行う団体を登録し、活用内容、活用期間、事前申請の手続き等を緩和し、その活動を促進することで、民間活力を用いて地域魅力を高めることができる。 ②都市利便増進協定 地域のまちづくりルールを地権者や都市再生推進法人らが自主的に定め、運用するための協定制度である。協定を締結するにあたり、イベント実施時の管理等も含めた、施設の整備・管理について記載する。加えて、施設の運用で得られる収益により、質の高い公共空間の整備・管理、持続的なイベントの実施が可能となる。 ○参考になる事例 岐阜県岐阜市「サンデービルディングマーケット」 「サンデービルディングマーケット」は、柳ヶ瀬商店街の活性化を目的とした定期開催（毎月第3日曜日）のイベントである。「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」によって運営され、地元の商店主が自発的に参加している。主な内容としては、飲食や物販を含む100店舗以上が参加する市場の開催や、様々なカテゴリーの出店がある。この取り組みにより、新しい客層の獲得や、地域経済の活性化に効果をもたらしている。 図. 日常をテーマにしたマルシェ (出典：http://ysbmkt.com/) 図. 「ここにしかない、ひと・もの・空間」をテーマにしたマーケット	

09

地域情報発信を
目的とした
情報の掲示

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#三茶パティオ#三軒茶屋ふれあい広場
#キャロットタワー裏通り#栄通り

三茶

9つの未来像との結びつき

1歴史を継承しアートを生み出すまち
2個性豊かな店が通りを彩るまち
7災害に強く、安心・安全なまち
8暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち
9誰もがまちづくりに関われるまち

○概要

多くの利用者が通過する駅や商店街など、地域内の結節点を中心に情報を掲示する。マップなどの基礎的情報に加え、地域産業やイベントなどの情報が定期的に更新されるよう地域コミュニティを主体としたマネジメント体制の構築を行う。

また、SNS や地域情報を発信する HP などと連携したデジタルサイネージを設置することで、掲載情報の拡充及び情報更新の迅速化を行うことも効果的である。

○課題

誤った情報が広まることを防止するため、掲示する情報が正確・最新である必要がある。情報の更新を持続的に実施するための適切なガイドラインの設定、技術的支援、コミュニティの協力などが不可欠である。

○関連する制度や施策

①道路占用許可の特例（都市再生特別措置法）
市町村が、まちのにぎわい創出等のために必要であるとして、都市再生整備計画に位置づけた施設等については、一定の要件を満たせば「無余地性の基準」の適用が除外される道路占用許可の特例を受けることができる制度である。地域情報発信を目的とした掲示板やデジタルサイネージ等は、都市の再生に貢献し、道路の通行者及び利用者の利便の増進に資するものとして、本特例が適用可能である。

②都市利便増進協定
地域のまちづくりルールを地権者や都市再生推進法人らが自主的に定め、運用するための協定制度である。協定を締結するにあたり、掲示板やデジタルサイネージ等の情報発信媒体の管理等も含めた、施設の整備・管理について記載することで、持続的に運用可能な情報発信媒体を確保することが可能となる。

9/28

○社会的背景

コミュニティの関与と結束を促進するだけでなく、地域の住民にその場でのタイムリーかつ関連性の高い情報を提供することで、コミュニティ内での参加と協力を促し、地域文化の向上に寄与する。

さらに、緊急時や危機時には、効率的な対応と復旧努力を支援する信頼できる情報源として、重要な役割を果たすことが期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の公共空間では、イベントや行事が少ないことに加え、イベントの案内板がないため、地域情報の取得が困難である。また、コミュニティを感じられないといった意見も挙がっており、地域主導での情報の発信も必要である。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋
上図：地域コミュニティの情報がない掲示板（出典：プレイスゲーム実施時の撮影）

○プレイス・ゲームで出たアイデア

駅に通りの写真を掲載する！
パティオの情報を発信できる掲示場所を設ける！
壁に舞台やイベントの告知を貼る！

三茶廻

図：三軒茶屋の情報を発信するHP（三茶廻（さんちゃまわり））
（出典：https://sanchaba.tokyo/about/）

○参考になる事例

愛知県名古屋市「栄ミナミ デジタルサイネージ」
栄ミナミ地区の地域コミュニティ促進と観光振興を目的とし、栄ミナミエリアマネジメント社会実験協議会によって実験的に設置されたデジタル広告塔である。地域のイベント、ニュース、観光などの情報をリアルタイムで住民や訪問者に提供している。情報の更新は、専用のコンテンツ管理システム（CMS）を通じて行われ、設置主体や関連する地域団体が適宜、最新の情報に更新することで、常に鮮度の高いコンテンツを提供している。

図：道路に設置されたサイネージ
（出典：https://sakaeminami.jp/static/special/signage/）

図：タッチパネルによる情報の閲覧

124

10

沿道店舗の
商業誘致

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#三角地帯前面の道路
#西太子堂公園

三茶

9つの未来像との結びつき

2個性豊かな店が通りを彩るまち
4くつろぎの空間が育まれるまち
6拠点性を生かして人々の活動を支えられるまち

○概要

街のデザイン戦略と政策支援により商業店舗を誘致する。税制優遇、資金援助、建築規制の緩和などにより、地元企業や新規ビジネスを対象としたインセンティブを提供し、沿道に多様な店舗やサービスが集まるよう促す。

加えて、商業店舗の看板や店舗デザイン、公共空間活用の規制及び緩和を計画し、魅力的なアイレベルの形成を目指す。

○課題

都市計画との整合性を確保しながら、適切なビジネスを誘致するための資金調達及びインセンティブ設計を行う必要がある。加えて、誘致する商業店舗の地域貢献性や持続可能性を精査することも重要である。

○関連する制度や施策

①一体型滞在快適性等向上事業
滞在快適性等向上区域において、市町村が行う公共施設の整備等と一体となって行われる、土地所有者等による交流・滞在空間を創出する事業である。歩道の拡張や安全な横断歩道の設置、公共の休憩スペースや緑地の確保、建物低層部のオープン化（ガラス張り化）等が実施可能となる。事業を実施するためには、都市再生整備計画の区域内に「滞在快適性等向上区域」を定める必要がある。

②ウォーカブル推進税制
「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を目指す区域（滞在快適性等向上区域）において、民間事業者等（土地所有者等）が、市町村による道路、公園等の公共施設の整備等と併せて民地のオープンスペース化や建物低層部のオープン化を行った場合に、固定資産税・都市計画税の軽減措置を講じる制度である。

10/28

○社会的背景

道路沿いにおける商業店舗の展開は、良好なアイレベルの形成に寄与し、魅力的な歩行空間を実現する。これにより、人々は歩くことを楽しみ、街を探索する動機付けが強化されることが期待できる。

また、商業店舗が沿道に立地することで、店舗が道路上を活用する担い手として機能し、多様な人々の交流機会の創出に寄与することに期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では滞留できる場所がないため、カフェ等の屋内休憩施設で滞留場所を提供する必要がある。また、一部の道路では、似たような店舗が多いといった意見があり、より多様な内容の商業が求められている。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋
上図：店舗に面せず閉鎖的なアイレベルの歩道（出典：https://x.gd/q9dVY）

○プレイス・ゲームで出たアイデア

沿道店舗を
飲食店などに整理する！

図：多様な店舗が並ぶアイレベルの通り（栄通り）
（出典：https://sites.google.com/sanchasakae/）

○参考になる事例

兵庫県神戸市「サンキタ通り」
阪急神戸三宮駅北側の高架沿いに位置し、市内有数の繁華街に面する通りである。多くの歩行者と車両が行き交い、交通安全上望ましくない状況から、阪急神戸三宮ビルの建て替えと同時に行われた沿道の阪急高架下のリニューアルに合わせて、民地と一体となった道路空間整備が実施された。高架下の沿道店舗のにぎわいが道路へとしみだし、一体となって魅力的な空間が生まれる歩行者優先のみちづくりが行われ、待ち合わせやにぎわいの場として、多く利用されている。

図：ナイトタイムの様子
（出典：https://hokomichi.jp/case/）

図：高架下店舗のしみ出し
（出典：https://x.gd/83QwP）

125

pattern language

11

喫煙所の移設

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#三茶パティオ

三茶

9つの未来像との結びつき

4くつろぎの空間が育まれるまち

○社会的背景

アイレベルの形成の観点から、喫煙所は人々が日常的に利用する視線範囲内における適切な配置が求められる。同時に、非喫煙者の受動喫煙を避けるために、人通りの多いエリアから離れた場所への移設が求められる。また、喫煙に対する社会的認識の変化や公衆衛生への配慮を反映した、より快適で健康的な公共空間の実現に貢献することが期待される。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では、座る場所がなく休めるがないなど、移動途中での休憩スポットが求められている。また、広場は移動のための空間となっており滞留性がないため、広範の住民に開かれた空間としての魅力を活かしきれていない。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：目立つ場所に位置する喫煙所
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

清潔な場所にしたい！

○概要

移設先の検討においては、現在の喫煙所の位置と利用状況を詳細に分析し、移設先の選定には人通りが少ないがアクセス可能な場所を選定する。受動喫煙のリスクを最小限に抑えるため、公共施設や商業施設の入口から一定距離離れた場所に設定することが重要である。また、喫煙所のデザインにおいては周囲の環境や景観に調和するよう配慮することが必要である。

○課題

移設先地点の印象への影響が大きいため、地域住民やステークホルダーとの調整が必要不可欠である。さらに、法令等の制約により移設の選択肢が限られるため、喫煙所のデザインと設備に関するコストも考慮する必要がある。

○関連する制度や施策

①指定喫煙場所設置費補助制度

世田谷区内での公共空間の快適性向上を目的とし、商店街や企業などが区内に喫煙所を新たに設置または改善する際に、その費用の一部を区が補助する制度である。具体的には、設置に必要な工事費や設備購入費などが補助の対象となり、申請を通じて支援を受けることができる。この制度活用により、公共空間の品質向上が期待できる。

②受動喫煙防止対策助成金制度

働く人の健康保護を目的として、厚生労働省が実施する制度である。この助成金は、職場内の受動喫煙防止措置を講じるための費用を支援するもので、特に中小企業や小規模事業所を対象にしている。具体的には、屋内喫煙室の設置に必要な工事費、換気設備の導入や改善にかかる費用などが助成の対象となる。

○参考になる事例

東京都小平市「CIVIC PATTERN PROJECT」

株式会社ディーランド、JT、武蔵野美術大学、小平市の共同プロジェクトで、地域の観光や特産をモチーフにしたデザインで公共喫煙所をリニューアルするプロジェクトである。地域のアイデンティティを象徴するマルポストやブルーベリー、梨などのモチーフを特徴とするアートワークを公共喫煙所に設置し、地域の魅力を高めることを目指している。デザインのプロセスに、武蔵野美術大学の学生が参画することで、「Civic Pride」の醸成を図っている。

図2. リニューアルされた喫煙所
(出典：https://www.jti.co.jp/news/20220512_01.html)

図3. 地域資源をモチーフにしたアート

pattern language

12

看板デザインの工夫

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#キャロットタワー裏通り
#三角地帯前面道路

三茶

9つの未来像との結びつき

4くつろぎの空間が育まれるまち
5誰でも気軽に出かけられるまち

○社会的背景

適切な看板のデザインは、色彩、形状、配置などを考慮して、周囲の建物や自然と調和し、視覚的な騒音を減らすことができ、街並みや自然環境に溶け込む形で景観を美しく保つことに寄与する。

また、分かりやすく、目を引く看板デザインは、公共の場所でのルールやマナーを効果的に伝えることができ、地域の安全確保に貢献することが期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺では、商用看板の統一感がないなど、統一感のある魅力的な景観の形成が求められている。また、路上駐輪が多く散見されるため、交通マナーをいかに周知し、快適な歩行空間を実現するかが課題である。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：無秩序な路上駐輪
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

利用者がマナーを守りたくなるような看板や案内板を増やす！

○概要

地域コミュニティとの協働のもとガイドライン等を策定し、統一感のある景観の創出を目指す。また、地域の素材や工芸などの地域固有の要素を取り入れる。

また、マナー周知においては、簡潔で直接的に情報が伝達されるようなデザインに配慮する。直接的な看板の設置だけでなく、既存の道路及び設置物と併せてデザインを工夫することも効果的である。

○課題

定期的な内容の更新や維持管理の負担が重要なハードルであり、多様な利害関係者の意見を取り入れ、継続的な評価と改善が不可欠である。また、交通マナーの周知に関しては、交通管理者等の関係部局との調整が欠かせない。

○関連する制度や施策

①屋外広告物条例

常時または一定期間継続して公衆に張り出されている屋外広告物を、良好な景観の形成または風致の維持、公衆に対する危害の防止などを目的として、都道府県、指定都市及び中核市が屋外広告物法に基づき屋外広告物条例を定め、必要な規制を行うことができる制度である。一定の規模以上の広告物を設置する場合、地方自治体の許可が必要となり、乱立による視覚的な混乱を防ぐことが可能である。

②道路占用許可の特例（都市再生特別措置法）

市町村が、まちのにぎわい創出等のために必要であるとして、都市再生整備計画に位置づけた施設等については、一定の要件を満たせば「無余地性の基準」の適用が除外される道路占用許可の特例を受けることができる制度である。広告塔・看板は、都市の再生に貢献し、道路の通行者及び利用者の利便の増進に資するものとして適用可能である。

○参考になる事例

群馬県前橋市「前橋路上図鑑」

前橋市が実施する、JR前橋駅北口の路面に市内の名所を紹介するシート「前橋路上図鑑」を貼り付ける取り組みである。路面に地域観光資源等の情報を表示したシートを貼り付けることで、駅の利用客に市をPRするとともに、路上駐輪をしにくくして放置自転車を減少させることが狙いである。放置自転車を防止するために、立て看板やロープによる禁止表示ではなく、新しく見栄えの良い対策と手法を、地元大学の研究室との調査研究により実現した。

図. 路上に貼り付けられたシート

図. 地域資源の情報を図と文字で表示
(出典：https://www.city.maebashi.gunma.jp/material/files/group/2/koho202205_all.pdf)

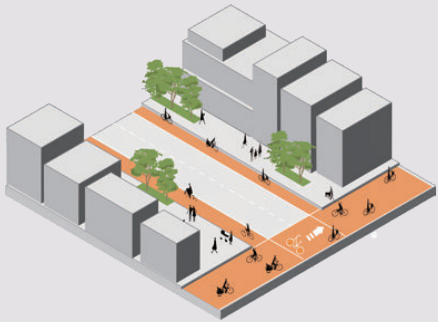
126

127

pattern language

13/28

13
の整備
自転車専用道



空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#茶沢通り



9つの未来像との結びつき

○社会的背景

自転車専用道の整備は、自動車への依存を減らし、交通の流れをスムーズにすることによる交通渋滞の緩和や、温室効果ガスの削減に貢献し、都市の持続可能性及び生活の質の向上に寄与する。

加えて、自動車と自転車、歩行者が空間的に分離されることにより、衝突リスクを削減し、交通事故の発生を抑制することも期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺では、路上駐輪が多く、自転車の通行が多いなど、自転車が住民の移動手段として機能している。しかし、自転車と歩行者が混在している状況であり、歩行者の安全性及び自転車移動の快適性においては改善が必要である。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：歩行者と自転車が混在する道路（出典：プレイスゲーム実施時の撮影）

○プレイス・ゲームで出たアイデア



○概要

自転車の交通量が多く、歩行者との混在が顕著な箇所を対象に、仮設物を用いた暫定的な実験から始める。実験から周辺交通への影響、歩行快適性への効果等の検証を行い、道路空間の再分配、デザインを十分に検討し、整備を行う。加えて、利用者の安全性と利便性を考慮した上で、住宅地域や商業地域、学校、公共施設等の目的地を結ぶ、広域での自転車ネットワークを構築する。

○課題

都市の既存のインフラとの調和が不可欠であるため、交通管理者との密な協議、連携が欠かせない。また、地域住民や多様なステークホルダーを含む多様な利害関係者のニーズを満たすための広範な合意形成が求められる。

図．自転車専用レーンの社会実験（三茶ストリートテラス）
（出典：https://www.city.setagaya.lg.jp）

○関連する制度や施策

①安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン

面的な自転車ネットワーク計画の作成方法や、歩行者、自転車、自動車が適切に分離された空間整備を行うための自転車通行空間設計の考え方等について、国土交通省が示すガイドラインである。各地域において、道路管理者や警察が自転車利用環境の整備と併せ、ハード、ソフトの両面から幅広い取組が行われるよう、関係各所と連携して実施すべき事項が記載されている。

②歩行者利便増進道路（ほこみち）制度

賑わいある道路構築のための道路の指定制度である。本制度によって道路管理者が指定した道路では、歩行者が安心・快適に通行・滞留できる道路空間の再構築として、車線を削減し歩道を拡げる等の道路の整備が可能となる。この再構築において、歩行者と自転車の分離のため、自転車専用の通行帯を整備することができる。

○参考になる事例

デンマーク「コペンハーゲンの取り組み」

デンマーク政府が主体となり、1980 年以降の化石燃料からの脱却として、車中心の社会から自転車中心の社会へとシフトする考えを示し、カーボンニュートラルやグリーンモビリティといった視点でいち早く政策、実践が進められてきた。多くの場所で歩道・自転車道・車道を構造的に分離しており、人々が安全に滞留する空間を確保している。また、車の台数を減らすことで、デンマークでは本来車が走行する車線に市民や観光客のくつろぎの場を創出している。



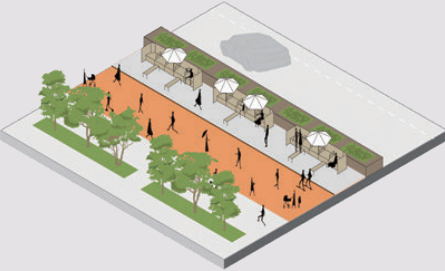
図．自転車専用レーン（出典：https://project.nikkeibp.co.jp/mirakoto/atcl/global/h_vol7）

図．歩行者と自転車のための橋

pattern language

14/28

14
の整備
歩行空間



空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#キャロットタワー広場



9つの未来像との結びつき

○社会的背景

全国的にも車中心から人中心に向けた取り組みとして、ウォーカブルまちづくりが推進されている。ウォーカブルなまちづくりを進めていくうえでは、まちなかの滞在快適性・回遊性を向上する必要がある。

また、歩行空間の拡充は、市民の身体活動を促し健康を促進することに繋がり、地域住民間の交流を促し、地域コミュニティを強化することにも期待できる。

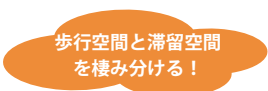
○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺では、動線が悪い、道路を横断する人が多いなど、歩行ネットワークの改善が課題として挙がっている。また、歩道と車道の段差が高く歩行しづらいなど、歩行快適性に資する路面の改善が求められている。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：目立つ場所に位置する喫煙所（出典：プレイスゲーム実施時の撮影）

○プレイス・ゲームで出たアイデア



○概要

多種多様な交通モード整序のもと、既存の空間の再分配を行う。暫定的な実験や交通量調査により、地域内の歩行者の流れや密度、既存の歩行空間の改善点を調査し、計画の立案を行う。整備においては、安全な滞留と通行の分配を検討のもと、歩道幅員の拡張や車道との明確な分離、路面舗装の更新、緑化等を行う。加えて、滞留空間や公共施設を併せて整備し、滞在快適性と利便性の向上を目指す。

○課題

都市の既存のインフラとの調和が不可欠であるため、交通管理者との密な協議、連携が欠かせない。また、地域住民や多様なステークホルダーを含む多様な利害関係者のニーズを満たすための広範な合意形成が求められる。

図．歩行環境改善に向けた社会実験（SANCHA STREET SEATS）
（出典：https://humanscape.main.jp/projects/placemaking/）

○関連する制度や施策

①リンク＆プレイス理論

ストリートの機能を「リンク（通行）」機能と「プレイス（滞留）」機能、そしてこれらを支える「アクセス環境整備」に区分し、都市内のストリートのタイプを2軸で表現したマトリックスを用いて、ストリートの特性を把握し計画する理論である。これまでの交通機能の優先順位が高かった日本の街路において、通行以外の路上活動としてプレイス機能を交通機能と同等に重要視し、計画することができる。

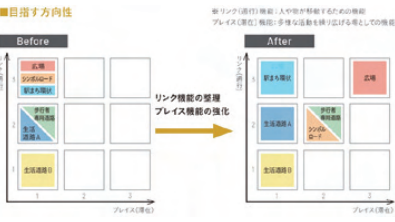
②歩行者利便増進道路（ほこみち）制度

賑わいある道路構築のための道路の指定制度である。本制度によって道路管理者が指定した道路では、歩行者の利便増進を図る空間を設けることができ、利便増進誘導区域を指定することで道路占用許可が柔軟に認められる。加えて、車線数を減らし歩道を広げることができ、安全かつ円滑な歩行環境を創出可能となる。

○参考になる事例

静岡県沼津市「公共空間再編整備計画」

沼津市では、「中心市街地まちづくり戦略」を策定し、短期・中期・長期と段階的にヒト中心のまちづくりを進めている。2022 年に策定された公共空間再編整備計画では、公共空間の再編として取組むべき事項や施策の方向性、進め方等を定めている。再編にあたっては、駅周辺の公共空間が有する性格に応じて 6 つの空間タイプ（広場、シンボルロード、生活道路等）に分け、それらをリンク機能とプレイス機能の2軸で分類し、まち全体の骨格づくりに活かしている。



図．地域内の空間の分類

図．2軸の分類による目指す方向性の整理（出典：https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/keikaku/various/machisenryaku/kukansaihen.htm）

128

129

15

歩行者天国化

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#茶沢通り
#キャロットタワー裏通り

三茶

9つの未来像との結びつき

5誰でも気軽に出かけられるまち

6拠点性を生かして人々の活動を支えられるまち

8暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち

○社会的背景

全国的にも車中心から人中心に向けた取り組みとして、ウォーカブルまちづくりが推進されている。ウォーカブルなまちづくりを進めていくうえでは、まちなかの滞在快適性・回遊性を向上する必要がある。

歩行者優先の空間実現により、人々が安全に歩行し、憩い、交流できる場を提供することで、都市の魅力向上、地域経済の活性化に寄与することが期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では、ベンチ等が少なく、休憩できる場所がないなど、滞留場所が求められている。また、自転車と歩行者が混在している状況であり、歩行者の安全な歩行環境整備においては改善が必要である。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：歩車の混在する道路空間
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

歩行者天国化！

荷捌き車の進入時間を制限するか荷捌きスペースを集約する！

図：歩行者天国時の茶沢通り
(三茶しゃれなあと)
(出典：https://sancha.or.jp/archive/1372/)

○概要

多種多様の交通モード整序のもと、車両交通を排除し、歩行者優先へと転換する空間を検討する。段階的に交通規制時間を拡大し、恒常化を目指す。

また、歩行者天国実現に向けては、車両の交通規制に併せて、沿道での駐車場出入口の設置制限や、沿道店舗への荷捌き制限が欠かせない。したがって、既存の駐停車需要を受け入れる集約駐車場の整備も併せて行う。

○課題

都市の既存のインフラとの調和が不可欠であるため、交通管理者との密な協議、連携が欠かせない。また、駐車場出入口の設置制限が必要となるため、地域住民や多様なステークホルダーとの合意形成が求められる。

○関連する制度や施策

①荷捌き駐車場の集約化及び地域ルール

歩行者天国化に伴い、沿道への荷捌き駐車需要に応じて、適切な駐車施設の確保と運用を行うことが必要である。駐車場法、都市の低炭素化促進に関する法律、都市再生特別措置法の3つのいずれかの法律に基づく地域ルールを活用することで、計画区域内において、市街地の特性に応じた駐車施設の供給量や配置を、適切にマネジメントすることが可能となる。

②駐車場附置義務条例の地域ルール

建築物の用途や実際の駐車場需要、敷地の立地状況等の地域特性に応じた柔軟な駐車施設の配置や附置義務基準の設定を可能とするもので、地域ルールが策定された地区においては、東京都駐車場条例に基づく必要設置台数を緩和できる。歩行者天国化する道路に面する空き地等の集約化が可能となり、沿道の駐車場の発生を抑制することが可能となる。

○参考になる事例

東京都豊島区「池袋地区駐車場地域ルール」

グリーン大通りを軸としたエリアの回遊性向上のため、2020年3月に地域ルールを策定した。特に、歩行者の通行を妨げる路上荷捌き等が目立つ池袋駅東口地区では2020年9月に「南北区道周辺荷さばきルール」が策定され、歩行者最優先の道路において車両通行を禁止する時間帯、荷さばきの時間帯・曜日と駐車場所のルール化を図った。引き続き、運用委員会が地域ルールの適用範囲拡大や運用マニュアルの改訂の検討を進め、歩行者優先のまちづくりを推進している。

図：適用地区の様子
(出典：https://www.city.toshima.lg.jp/551/machizukuri/kotsu/senryaku/1803081526.html)

図：地域ルール運用の組織体制

16

車両規制
時間の変更

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#栄通り #茶沢通り

三茶

9つの未来像との結びつき

5誰でも気軽に出かけられるまち

6拠点性を生かして人々の活動を支えられるまち

○社会的背景

全国的にも車中心から人中心に向けた取り組みとして、ウォーカブルまちづくりが推進されており、ピーク時間帯の交通流を効率的に管理することで、都市部の交通渋滞を軽減し、通勤や通学のストレスを減少させることが期待できる。さらに、交通事故のリスクが低減され、歩行者や自転車利用者の安全を確保することにも寄与する。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では、ベンチ等が少なく、休憩できる場所がないなど、滞留場所が求められている。また、自転車と歩行者が混在している状況であり、歩行者の安全な歩行環境整備においては改善が必要である。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：歩車が近距離ですれ違う道路空間
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

歩行者天国の時間を広げる！

車や自転車の通れる時間の制限・禁止！

図：歩行者天国時の茶沢通り
(三茶しゃれなあと)
(出典：https://sancha.or.jp/archive/1372/)

○概要

多様な交通モードを整理し、車両交通を排除して歩行者優先の空間および時間帯への転換を図ることを検討する。その実施に際しては、車両の交通規制を示す標識の設置および撤去を円滑に行う体制を構築する。

併せて、沿道店舗への荷捌き制限が求められるため、既存の荷捌きに対する駐停車需要を集約できる場所と時間帯の設定が必要である。

○課題

都市の既存のインフラとの調和が不可欠であるため、交通管理者との密な協議、連携が欠かせない。沿道店舗へ車両からの荷捌きを行う時間の集約が必要となるため、地域住民や多様なステークホルダーとの合意形成が求められる。

○関連する制度や施策

①道路使用許可（道路交通法）

通常の交通ルールに則ってではなく、特定の目的で公道を使用したい場合に必要となる公的な許可であり、公道の安全と秩序を保ちながら、特定の活動を可能にするために設けられている。道路を一時的に封鎖したり、特定の車両のみ通行を許可する場合などにこの許可が必要となる。申請者は、交通管理者である警察に対して、道路使用の目的、期間、場所などの詳細を提出し、許可を得なければならない。

②歩行者用道路（道路交通法）

通常は道路全体を「歩行者専用」として、歩行者以外の車両を通行禁止とする規制であり、いわゆる歩行者天国に相当するものや、住宅街の道路などで通行禁止規制を行うものが存在する。道路法による場合とは異なり、規制対象の車両や規制日時を限定して規制されることもある。

○参考になる事例

沖縄県那覇市「トランジットマイル」

毎週日曜日、12～18時にメインストリートの国際通りの区間約1.3km（県庁北口交差点から蔡温橋交差点の間）で一般乗用車の通行を禁止し、歩行者と路線バス専用の空間としている。地元のエイサー舞踊などを繰り広げるパフォーマンスエリア、企業イベントエリア、キッチンカーエリア、キッズスペースといった、片側車線を用いるゾーニングもされており、賑わいのある空間を創出してきた。これらは、県からの道路使用許可を得ている。

図：道路空間での大道芸イベント
(出典：https://naha-kokusaidori.okinawa/eventinfo/transitmall.html)

図：道路空間での文化交流イベント

pattern language

17/28

17

駐輪場整備

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#茶沢通り

三茶

9つの未来像との結びつき

○社会的背景

自転車利用が増加する中、適切な駐輪スペースがなければ、歩道や路上に無秩序に駐輪され、歩行者の安全や他の交通への影響が懸念される。整備された駐輪場は、街の交通秩序を向上させ、歩行者の安全を確保する。また、自転車は環境に優しい移動手段であり、駐輪場の整備が進むことで自転車利用が促進され、都市の持続可能な発展にも寄与する。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺では、路上駐輪が多く、自転車の通行が多いなど、自転車が住民の移動手段として機能している。しかし、放置駐輪が道路に無秩序に配置されている箇所が散見され、駐輪施設の適切な配置が必要である。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：無秩序な路上放置自転車
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

駐輪場を増やす！

○概要

地域内の自転車交通の状況を調査し、適切な駐輪場の位置及び配置の検討を行う。整備においては、限られたスペースを最大限に活用することが重要であり、公共施設や商業施設の近くや交通ハブの周辺に設置することで、利便性の向上を図る。また、シェアサイクルの利用を促進することで、無秩序な路上駐輪の減少を目指す。

○課題

道路上に駐輪場を整備する場合は、道路占用許可の取得と許可部局との調整が欠かせない。公共施設や商業施設と併せて整備する際は、ステークホルダーとの十分な協議が不可欠である。

○関連する制度や施策

①歩行者利便増進道路（ほこみち）制度

賑わいある道路構築のための道路の指定制度である。本制度によって道路管理者が指定した道路では、利便増進誘導区域を指定することで道路占用許可が柔軟に認められ、歩道の一部や道路の余剰スペースを、自転車の駐輪スペースとして整備することが可能となる。また、道路占用者を公募により選定した場合には、最長 20 年の道路占用許可が可能となる。

②世田谷区民営自転車等駐車場育成補助金

自転車等の放置防止に寄与する民営自転車等駐車場の設置育成を目的として、一定条件を満たすものについて、建設当初に要した経費の一部を補助する制度である。補助対象は民営自転車等駐車場を設置しようとする者で、平置式で3年又は5年、立体自走式で7年、立体機械式で10年以上の運営期間が必要などの条件がある。経費としては舗装やラック案内板、精算機等が対象となる。

○参考になる事例

千葉県柏市「かしわスマートサイクル」

柏市、柏市まちづくり公社による柏の葉エリアで次世代環境都市づくりを目指す社会実験であり、各種モビリティ・シェアリング実証実験を展開し環境負荷の少ない自転車の利用を促進する環境づくりの取り組みとして実施された。広場再整備や駅前街区新施設オープンがきっかけとなり、千葉大学・柏市・地元企業等による共同研究のもと、本サイクルシステムに適した、柏市オリジナルデザインの駐輪ラックを開発し、先行的に TX 高架下ポートに設置運用を行っている。

図. 高架下のサイクルポート
(出典：http://www.kashiwa-machidukuri.or.jp/about/history)

図. シェアサイクルのポート

pattern language

18/28

18

案内板等の設置

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#キャロットタワー広場
#三角地帯前面の道路#栄通り

三茶

9つの未来像との結びつき

○社会的背景

都心部では、道路標識や店舗の看板等、様々な情報で溢れている。一方で、必要な情報が不足することもあり、必要な情報を明確に伝達することが求められる。緊急時の避難経路表示など、公共の安全に寄与するほか、多様な言語やシンボルを用いることで、国際的な観光客や言語障壁を持つ人々にも情報を伝えることが可能になる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅から各地へのアクセス方法がわかりにくい等、交通結節点では明瞭な案内情報の提供が求められている。また、避難場所への案内板が必要、バス停が点在しており見つけにくい等、都市内の方向指示においても改善が必要である。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：あまり目立っていないバス停
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

管理組合による案内施設の改善！案内アプリや案内板を設ける！駅の出口の名前を「栄通り口」にする！

○概要

地域内で案内板が必要なポイントを特定した後、設置を行う。作成に当たっては、利用者が直感的に理解できるシンプルなレイアウトと明瞭な表示を心掛ける。多言語表記やピクトグラムの使用も、国際的な観光客や言語障壁を持つ人々への配慮として有効である。加えて、設置後は、案内板の状態を定期的に確認し、損傷や情報の陳腐化がないかを精査する。

○課題

過剰な情報の提供は、かえって利用者の混乱を招くため、情報の精査が必要である。また、案内板は情報の更新や損傷の修復等、定期的なメンテナンスが必要のため、継続的な整備体制を構築することも必要である。

○関連する制度や施策

①看板等設置に係る都市公園の占用許可の特例（都市公園法）

現行の都市公園法では、民間主体が都市公園内に看板・広告塔を設置することは認められていないが、本特例を活用することで、地域の催しに関する情報を提供する看板・広告塔の設置について、市町村が都市再生整備計画に位置付けた場合、一定の要件を満たせば、公園の占用許可を受けることができる。

②道路占用許可（道路法）

道路に一定の施設を設置し、継続して道路を占有することを許可する制度である。道路の占有の許可は、一般公衆の自由な通行・使用を目的とする道路を、著しい支障を与えない場合に限り、特定の者に排他独占的に占有する権利を与えるものである。占用料徴収権は、道路管理権に基づくものである。

○参考になる事例

大阪府大阪市「One to One 案内システム」

西日本のグループ企業である、JR 西日本テクシアが開発したデジタル可変案内サイン システムである。駅の情報提供手段の 1 つである案内サインを、利用者の動きとニーズに合わせて、表示内容を可変させ案内をおこなう。そのため、駅の案内サインが自分専用の行き先案内板となる。この機能は専用アプリと案内サインがある場所であれば活用できるため、何処に行けば良いか解らないシーンで、この One to One 案内システムが活躍の期待ができる。

図 2. 実証実験時の案内板
(出典：https://media.jrw-ip.jp/blog/274/)

図 3. 案内情報掲示の仕組み

pattern language

19

植花や木をえる

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#キャロットタワー裏通り
#三角地帯前面の道路#茶沢通り

三茶

9つの未来像との結びつき

○社会的背景

全国的に脱炭素化等、地球環境に配慮した持続可能なまちづくりが推進されている。都市の緑化は、ヒートアイランド現象の緩和、大気汚染の低減等、都市問題の解決に寄与する。また、緑豊かな環境は、市民のメンタルヘルスを向上させ、ストレスを軽減する。公園や緑地は、地域コミュニティの強化、社会的な相互作用の場を提供する。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の広場は、緑が少ない状況であり、滞在快適性が十分に確保されていない状況である。

また、道路においても街路樹整備がされているものの殺風景であり、継続的な整備が行き届いていない課題がある。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：街路樹の少ない道路
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

ベンチや花を増やす！

花や木を植えて場を明るくする！

ガードレールの代わりに花壇や植栽！

○概要

屋上緑化、壁面緑化、道路沿いや公園内の樹木の植樹、空き地の緑地化等、多様な方法を検討する。緑化の推進にあたっては、地域コミュニティと協働のもとで取り組む。コミュニティガーデンの設置や共同植樹活動を実施することで、緑化の推進だけでなく、地域住民のコミュニケーションの場としても機能させることで、地域コミュニティの強化へと繋げる。

○課題

限られた都市空間の有効活用、資金調達難の難しさ、維持管理の継続性、都市計画との整合性、利害関係者間の意見調整等が課題である。これらに対処するためには、包括的な計画、持続可能な資金確保、コミュニティの参画が必要となる。

○関連する制度や施策

①緑化施設整備計画認定制度

建築物の屋上や空地など敷地内を緑化する計画（緑化施設整備計画）について、市町村長の認定を受けることにより、事業者が緑化に関して税制面で優遇措置を受けることができる制度である。都市における緑の減少や不足の対策として、公共空間の緑化だけでなく民有地や建築物の緑化を推進する。小規模ながらも効果的な緑化を通じて都市環境の改善を目指したものである。

②街のすきま緑化事業

東京都が区市町村と連携し、緑化や緑地保全活動に意欲のある人々やグループを結び付けて、東京都の市街地にある遊休地や広い敷地の一部分といった、緑を生み出すことのできる空間を、地域に親しまれる緑空間として整備工事を行っていく事業である。都市部のビルの屋上や壁面、公共施設、住宅地などでの緑化を奨励している。

○参考になる事例

神奈川県横浜市「日本大通り」

横浜市と日本大通り活性化委員会みどりアップ会による日本大通りのイチョウ並木のある街並みを活かし、地区内の事業者が協力して至る所に緑が身近に感じられる豊かな街づくりを目指した事例である。横浜を代表するストリートである日本大通りの新たな賑わいの創出と更なる景観向上を目指す取組みとして実施された。3ヶ月の期間の中で、店舗周辺で壁面緑化やプランター緑化などを実施、ワークショップや維持管理の手引きの検討を行った。

図：道路両側で一貫した植栽整備
(出典：作成主体による撮影)

図：街路樹とプランターの整備

19/28

○社会的背景

全国的に脱炭素化等、地球環境に配慮した持続可能なまちづくりが推進されている。都市の緑化は、ヒートアイランド現象の緩和、大気汚染の低減等、都市問題の解決に寄与する。また、緑豊かな環境は、市民のメンタルヘルスを向上させ、ストレスを軽減する。公園や緑地は、地域コミュニティの強化、社会的な相互作用の場を提供する。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の広場は、緑が少ない状況であり、滞在快適性が十分に確保されていない状況である。

また、道路においても街路樹整備がされているものの殺風景であり、継続的な整備が行き届いていない課題がある。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：街路樹の少ない道路
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

ベンチや花を増やす！

花や木を植えて場を明るくする！

ガードレールの代わりに花壇や植栽！

○概要

屋上緑化、壁面緑化、道路沿いや公園内の樹木の植樹、空き地の緑地化等、多様な方法を検討する。緑化の推進にあたっては、地域コミュニティと協働のもとで取り組む。コミュニティガーデンの設置や共同植樹活動を実施することで、緑化の推進だけでなく、地域住民のコミュニケーションの場としても機能させることで、地域コミュニティの強化へと繋げる。

○課題

限られた都市空間の有効活用、資金調達難の難しさ、維持管理の継続性、都市計画との整合性、利害関係者間の意見調整等が課題である。これらに対処するためには、包括的な計画、持続可能な資金確保、コミュニティの参画が必要となる。

○関連する制度や施策

①緑化施設整備計画認定制度

建築物の屋上や空地など敷地内を緑化する計画（緑化施設整備計画）について、市町村長の認定を受けることにより、事業者が緑化に関して税制面で優遇措置を受けることができる制度である。都市における緑の減少や不足の対策として、公共空間の緑化だけでなく民有地や建築物の緑化を推進する。小規模ながらも効果的な緑化を通じて都市環境の改善を目指したものである。

②街のすきま緑化事業

東京都が区市町村と連携し、緑化や緑地保全活動に意欲のある人々やグループを結び付けて、東京都の市街地にある遊休地や広い敷地の一部分といった、緑を生み出すことのできる空間を、地域に親しまれる緑空間として整備工事を行っていく事業である。都市部のビルの屋上や壁面、公共施設、住宅地などでの緑化を奨励している。

○参考になる事例

神奈川県横浜市「日本大通り」

横浜市と日本大通り活性化委員会みどりアップ会による日本大通りのイチョウ並木のある街並みを活かし、地区内の事業者が協力して至る所に緑が身近に感じられる豊かな街づくりを目指した事例である。横浜を代表するストリートである日本大通りの新たな賑わいの創出と更なる景観向上を目指す取組みとして実施された。3ヶ月の期間の中で、店舗周辺で壁面緑化やプランター緑化などを実施、ワークショップや維持管理の手引きの検討を行った。

図：道路両側で一貫した植栽整備
(出典：作成主体による撮影)

図：街路樹とプランターの整備

pattern language

20

無電柱化整備

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#栄通り#茶沢通り

三茶

9つの未来像との結びつき

○社会的背景

わが国において電柱は、自然災害時における倒壊のリスクがあり、災害時の都市機能の維持が求められる。また、街並みの美観の低下や歩行者の歩行快適性・安全性においても改善の必要がある。こうした課題に対し、無電柱化は、都市の防災力を高めるだけでなく、視覚的な障害を取り除き、より開放的で快適な空間を創出する効果が期待される。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では、どの沿道店舗も賑わっている。一方で、通り全体で一体的な雰囲気を感じられないといった意見が挙がっており、通り全体を一体的に整備し、統一感のある景観形成が求められている。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図：電線が張り巡る通り
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

無電柱化する！

アーケードをかけて電柱を地中化をする！

○概要

地域のインフラ状況、道路の構造、地下にある既存の管路や施設の調査を行い、整備計画を策定する。工事においては、電力線や通信線の地中埋設工事を行った後、既存の電柱の撤去を行う。地中埋設工事からの復旧の際には、路面の舗装整備や街路灯、信号機などの公共施設の新たな設置を併せて実施し、魅力的な景観を形成する。

○課題

沿道ステークホルダーの合意形成や、関連する法規制の遵守が欠かせない。地下の水道管などの既存のインフラを総合的に勘案した計画立案、工事期間中の交通への影響や住民の生活への配慮等も重要な課題である。

○関連する制度や施策

①無電柱推進計画事業補助制度

防災性の向上、安全性・快適性の確保、良好な景観形成などの目標の確実な達成を図るため、地方公共団体等による無電柱化の整備を計画的かつ集中的に支援をする制度である。無電柱化推進計画事業を行う地方公共団体又は土地区画整理事業、市街地再開発事業等を施行する者に対しその経費の一部に対して負担金の負担又は補助金の交付を行う地方公共団体を対象者としている。

②電線共同溝の整備等に関する特別措置法

特定の道路について、電線共同溝の整備等を行うことにより、安全かつ円滑な交通の確保と景観の整備を図ることを目的とした特別措置である。道路管理者は、道路の構造及び交通の状況、沿道の土地利用の状況等を勘案して、区間を定めて、電線共同溝を整備すべき道路として指定することができる。

○参考になる事例

埼玉県川越市「川越一番商店街」

川越市と川越一番商店街による、歴史的町並みを生かした活気ある商店街の形成を目的とし、景観に配慮した電線地中化等の共同化事業である。町並みの魅力をより高めるため、市が実施する下水管・水道管の敷設替え工事と併せて、市と民間事業者（東京電力、N T T 東日本）の共同による電線類地中化事業を実施した。無電柱化することによって、電柱や電線で隠れていた町並みが観光資源になったことで、地域商業が活性化し、川越のイメージアップによって地価が安定した。

図2：無電柱化整備された街並み
(出典：https://media.jrw-ip.jp/blog/274/)

図3：街路灯のみの景観

134

135

21

壁面に
アートを描く

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

キャロットタワー裏通り

三茶

9つの未来像
との結びつき

1 歴史を継承しアートを生み出すまち

4 くつろぎの空間が育まれるまち

9 誰もがまちづくりに関われるまち

○社会的背景

壁面アートは、都市における閉鎖的な建物の壁面を活用し、公共のアートスペースに変えることで、都市の景観を改善し、地域の魅力を高める取り組みとして注目されている。

また、地元のアーティストや住民がプロジェクトに参加することで、地域コミュニティを強化し、住民の地域への愛着を高める効果も期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の道路では、沿道店舗が活発な賑わいをみせる一方で、一部道路では、暗い雰囲気があり、建物の入口がオシャレでない等、歩行者視点での沿道景観の改善が求められている。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図．閉鎖的な建物の壁面
(出典：Google Earth)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

地域の人で壁面を綺麗にする！

バンクシーや三茶のアーティストに絵を書いてもらい、場を明るくする！

○概要

プロジェクトの目的とテーマを明確にし、アートを描くのに適切な壁面を選定する。この過程では、壁の状態、可視性、サイズ、そして所有者の許可が重要な要素となる。実施段階では、アートの寿命を延ばすための壁の下処理を行う。

また、ワークショップや公開イベントの開催により、地元のアーティストや住民をプロジェクトに巻き込むことも効果的である。

○課題

建築の所有者に加え、地域コミュニティの参加とサポートが不可欠であるため、これらの主体との十分な協議が必要となる。また、完成後の長期的な保護と維持のため、持続的な維持管理の計画も必要となる。

○関連する制度や施策

①世田谷区地域文化芸術振興事業補助金

区民の文化・芸術活動の支援や、文化・芸術によるまちの賑わい・魅力の創出支援の取組みを進めるため、補助金を交付するものである。

対象となるのは、補助金の交付対象となる事業を行う団体で、団体の要件として、過去に文化芸術振興事業を実施した実績がある等の一定の要件を満たす必要がある。

募集は年1回、3月下旬から4月上旬に行われる。

②まちなかウォークابل推進事業

車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者等が実施する、道路・公園・広場等の整備や修復・利活用、滞在環境の向上に資する取組を重点的・一体的に支援し、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業である。

○参考になる事例

和歌山県白浜町「JAPAN WALLS 2023 in SHIRAHAMA」

浜温泉旅館協同組合、JAPAN WALLS と株式会社 AIDAMA によるハワイ発の世界的なストリートアートプロジェクト。白浜町を“日本でNo.1 の数を誇るミューラルの町”にするためアート、音楽 やダンスなど多様なカルチャーを通し、白浜で暮らす人々、そして白浜を訪れる人々にとっての新たな地域 & 文化交流となる場の創出を目指し実施された。町内各所でイベントを行っており、回遊性が高まり多くの人が訪れ、多様なカルチャーを通じた交流が多くみられた。

図．制作されたミューラル
(出典：https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000011.000067444.html)

図．作成の様子

22

公園利用の
ルール策定

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

三軒茶屋ふれあい広場
西太子堂公園

三茶

9つの未来像
との結びつき

4 くつろぎの空間が生まれるまち

6 拠点性を生かして人々の活動を
支えられるまち

8 暮らしを通して様々な関係性が
生まれるまち

○社会的背景

近年、公園や広場等の公共空間は、騒音問題やゴミの放置等の問題対応、利用者の安全確保等の背景から、様々な禁止事項が定められている。

一方で、日替り等で公園の利用方法を定めるルール策定にも注目が集まっている。多様なニーズに対応可能な公園整備を促進し、地域コミュニティの活性化にも寄与することが期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の公園・広場は、遊具が少なく、ボール遊び等が禁止されており、子供たちにとって遊びづらい空間となっている。

また、平日の活用はなく、イベント時の一時的な賑わいに留まっている。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図．遊具の少ない公園
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

月曜日はボール遊び day など、活動テーマを設定した利用ルールを作る！

○概要

地域コミュニティや住民との協議のもと、公園利用のルールを再検討する。例えば、特定の日に子供向けの活動を優先し、別の日には静かなリラクゼーションや読書が楽しめる環境を提供するなど、利用者のニーズに応じたルール設定を行う。公園を管理・運営する事業者を誘致し、民間の民間の資金、技術、運営ノウハウを導入することで、サービスの質の向上を図ることも効果的である。

○課題

多様なニーズへの対応と安全確保のための規制の調整が課題であり、地域コミュニティや住民との密な協議が必要である。また、継続的な管理・運営の体制を構築することも不可欠である。

○関連する制度や施策

①指定管理者制度

指定管理者に公の施設の管理を行わせる制度である。都市公園においては、一般的に、新たな公園施設の整備を伴わず、都市公園全体の運営維持管理を民間事業者等に行わせる手法であり、性能発注、一定期間にわたる業務期間、包括的な業務実施等による住民サービスの質の向上と行政の経費節減が制度活用のメリットとして挙げられる。

②都市利便増進協定

地域のまちづくりルールを地権者や都市再生推進法人らが自主的に定め、運用するための協定制度である。協定を締結するにあたり、施設利用のルール及びその運用方法等も含めた、施設の整備・管理について記載することで、持続的に施設利用のルールを適用・更新する体制の構築が可能となる。

○参考になる事例

愛知県豊田市「新とよパーク」

新豊田駅東口駅前に設けられた広場で、2019 年の駅前広場のリニューアル時に開設され、「自由と責任」をモットーに多様性を受け入れ、新しい時代の「普通」を反映させる場所として設計された。ここでは、通常は禁止されているストリートスポーツ、バーベキュー、音楽ライブなどが認められている。エリア内は清潔に保たれた舗装路面と、街中の障害物を模したセクションが完備されており、毎日 7:00 から 23:00 まで無料で誰でも利用可能となっている。

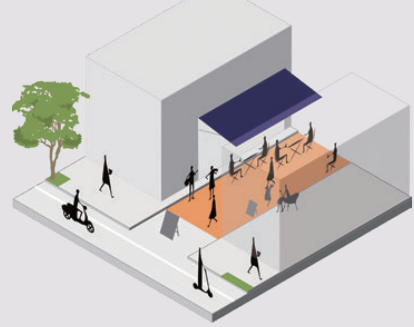
図．広場整備完了時の様子
(出典：https://www.realpublicstate.jp/post/shintoyopark/)

図．広場利用の様子

136

137

pattern language	23/28
23 路上ライブの許可  空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #三茶パティオ 4 くつろぎの空間が育まれるまち 6 拠点性を活かして人々の活動を支えられるまち 三茶 9つの未来像との結びつき	社会的背景 全国的にも車中心から人中心に向けた取り組みとして、ウォーカブルまちづくりが推進されている。ウォーカブルなまちづくりを進めていくうえでは、まちなかの滞在快適性・回遊性を向上する必要がある。 さらに、道路などの公共空間（施設）を都市の余白となる貴重な地域資源ととらえ、多様な人々の交流機会の創出に寄与することに期待できる。 三軒茶屋駅周辺エリアの課題 三軒茶屋駅周辺の公共空間は、平日に活用ができておらず、日常的な魅力に欠ける状態である。また、イベントが少ないもしくはできない等、空間利用手続きの簡素化により、多様な人々の交流機会を創出することが求められている。 ※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋 上図：平日の賑わいがない広場（出典：平日に撮影） プレイス・ゲームで出たアイデア ストリートライブなどを気軽にできる環境を作る！ 概要 路上ライブを許可する場所及びアーティストの選定と、継続的かつ容易に許可を取得できるような体制の構築を行う。 場所の選定においては、人通りが多く文化的な活動に適した、地域の特性や文化的価値を考慮する。アーティストの選定においては、その才能、独創性、公共の場に適した内容等を審査する。 課題 道路や公園等での実施には、「使用許可」の取得と許可部局との調整が欠かせない。また、演奏時間の制限、音量の規制、場所の使用方法等についてステークホルダーとの十分な協議の基、ガイド化する必要もある。 関連する制度や施策 ①ヘブンアーティスト事業（東京都） 審査に合格したアーティストに「ヘブンアーティスト」のライセンスを交付し、都が指定する公園や広場などの場所でパフォーマンスや音楽演奏を行うことを許可する制度である。この事業を通じて、東京都は都民が気軽に芸術文化に触れる機会を提供することを目的としている。ヘブンアーティストになるためには、公開審査会に応募し、審査を通過する必要がある。 ②道路使用許可（道路交通法） 道路の本来の用途に即さない道路の特別の使用行為で、交通の妨害となり、又は交通に危険を生じさせるおそれのあるものは、一般的に禁止されている。このうち、それ自体は社会的な価値を有することから、一定の要件を備えていれば、警察署長の許可によって、その禁止が解除される行為を、道路使用許可が必要な行為と定められている。 参考になる事例 千葉県柏市「柏ストリートミュージシャン登録制度」 柏市と街づくり団体「ストリート・プレイカース」による、ストリートミュージシャンたちが集い、多彩な音楽空間をつくりあげる活動。柏駅東口駅前ダブルデッキをストリートミュージシャンたちの舞台と位置づけ、活動を支援している。「登録制」「アンプの使用禁止」「指定区画のみ演奏可能」「活動時間厳守」が大きな特徴である。このルールにより柏駅東口駅前、ミュージシャンにとってより魅力的な場所であり、市民にとっては柏らしさを感じられる場所となった。   図：ロゴ 出典：http://www.kashiwa-rule.com/index.html 図：デッキでの演奏可能場所 出典：http://www.kashiwa-rule.com/index.html

pattern language	24/28
24 路地の活用  空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り 6 災害に強く、安心・安全なまち 三茶 9つの未来像との結びつき	社会的背景 全国的にも車中心から人中心に向けた取り組みとして、ウォーカブルまちづくりが推進されている。ウォーカブルなまちづくりを進めていくうえでは、まちなかの滞在快適性・回遊性を向上する必要がある。 路地を都市の余白となる貴重な地域資源と捉え、滞在性を向上させることにより人々の交流機会の創出に寄与することを期待できる。 三軒茶屋駅周辺エリアの課題 三軒茶屋駅周辺の公共空間では、ベンチ等が少なく、休憩できる場所がないなど、滞留場所が求められている。また、建物の裏側の路地は暗い印象があるため、滞在場所として活用することにより場所のイメージを改善する必要がある。 ※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋 上図：暗い印象の路地（出典：プレイスゲーム実施時の撮影） プレイス・ゲームで出たアイデア 茶沢通りから延びる路地を有効活用する！ 概要 沿道店舗のテラス席、商品や看板を設置する等、路地空間を滞留場所として活用する。幅員の狭い道路のため、車両の乗り入れを制限することで歩車を分離し、歩行者及び滞留者の安全な環境を実現する。また、沿道事業者や地域コミュニティ等の民間と行政が協働で活用することで、持続的な活用に向けた許可取得、維持管理の体制の構築を図る。 課題 道路空間の活用には、「道路占用許可」「道路使用許可」の取得と許可部局との調整が欠かせない。道路空間を通行機能と異なる使い方をするため、沿道のステークホルダーとの十分な協議が不可欠である。 関連する制度や施策 ①まちなかウォーカブル推進事業 車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者等が実施する、道路・公園・広場等の整備や修復・利活用、滞在環境の向上に資する取組を重点的・一体的に支援し、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業である。ハード整備に加え、社会実験や調査などのソフト事業も対象である。 ②歩行者利便増進道路（ほこみち）制度 賑わいある道路構築のための道路の指定制度である。本制度によって道路管理者が指定した道路では、歩行者の利便増進を図る空間を設けることができ、利便増進誘導区域を指定することで道路占用許可が柔軟に認められる。また、道路占用者を公募により選定した場合には、最長 20 年の道路占用許可が可能となる。 参考になる事例 オーストラリア・メルボルン市「レーンウェイ」 都心業務地区（CBD）内に整備された路地で、メルボルン市の文化と活気ある都市生活の象徴となっている。元々はサービスルートや後方アクセスとして機能していたが、今では個性的なカフェ、ブティック、バー、壁画アートで知られ、都市文化の中心となっている。ホージャー・レーンは、多くのアーティストがアートを描き、世界的に有名である。また、センタープレイスなどの他のレーンウェイも、ユニークなショッピング体験や美食を提供している。   図：センタープレイス 出典：https://whatson.melbourne.vic.gov.au/things-to-do/walks/arcades-and-lanes 図：ハードウェア・レーン 出典：https://whatson.melbourne.vic.gov.au/things-to-do/walks/arcades-and-lanes

pattern language

25/28

25

周辺ランドスケープとの調和

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#西太子堂公園

三茶

9つの未来像との結びつき

○社会的背景

近年、脱炭素化や緑化推進等の持続可能な都市空間の形成が推進されている。都市の公園や未利用地を周辺のランドスケープとの調和を図り整備することは、公園をより魅力的でアクセスしやすい場所にし地域コミュニティの強化に寄与する。加えて、公園とその周辺地域が調和していると、都市の美観が向上し、住みやすい環境が実現することにも期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の公共空間は、緑の空間が少ない現状がある。また、公園周辺には飲食店等の商業施設がないため、滞在性に欠ける現状がある。店舗誘致等も含めて、公園を周辺の環境と一体的に整備し、滞在性及び良好な景観を形成する必要がある。

上図：周辺に商業施設のない公園
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

○プレイス・ゲームで出たアイデア

隣接する畑や遊歩道を公園の一部に拡張する！

○概要

公園や広場、低未利用地等の空間を、隣接する民有地や道路空間と一体的に調和された景観を整備する。整備にあたっては、緑化の推進、滞留空間の創出等の地域に不足する要素を確保する。また、整備の計画においては周辺の事業者や地権者等のステークホルダーと協議し、デザイン検討のための社会実験やワークショップ等により民有地と一体的に整備可能なものを策定する。

○課題

周辺の民有地も含め調和した景観を形成するため、周辺の事業者や地権者等のステークホルダーとの協議が不可欠である。また、整備後の持続的な維持管理の仕組みや体制の構築も課題である。

○関連する制度や施策

①公園まちづくり制度

都市計画公園内の未供用部分を対象に、民間による都市開発の機会を捉えたまちづくりと公園・緑地の整備とを両立させ、早期の公園機能の発現とにぎわいの創出等を図ることを目的として、東京都が2013年12月に創設した制度である。民間の創意工夫を生かしたまちづくりと公園・緑地の整備とを両立させるため、民間の事業者等による計画の提案と整備の実施を基本とする。

②市民緑地認定制度

緑地やオープンスペースが不足している地域において、企業が所有する土地、個人所有地、空き地等民有地を有効活用し、民間の力により地域住民の活動の場となる公的な機能を有する緑地空間を創出する制度である。民間主体が作成した設置管理計画を市町村が認定することで、企業や地域コミュニティ等の力を活用して良好な緑地空間創出を促進する。

○参考になる事例

千葉県柏市「ふうせん広場」

身近にある空き地を地域の人々で手を加え、使える「地域の庭」にすることで、緑を保護、増進させることを目的とした柏市の「カシワ制度」を活用し、空き地を有効活用し、身近な緑を創出した事例である。NPO法人balloonが管理しており、地域のこどもたちと共に空き地を遊び場として整備した。私有地であるため、地権者の了承が得られれば、BBQや花火等も実施も可能であり、責任を持って管理することで、よりパブリックな空間に転換されている。

図：憩いの場となっている広場
(出典：https://www.tanacar.co.jp/categories/kashiwa/fusen_hiroba.html)

図：こどもたちと共に整備した空間

pattern language

26/28

26

照明の整備

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#キャロットタワー裏通り

三茶

9つの未来像との結びつき

○社会的背景

適切な照明は、歩行者や車両の視認性を高め、交通事故のリスク減少に寄与する。また、照明は犯罪の抑制にも寄与し、住民や訪問者に安心感を提供することで、夜間の経済活動や社会活動を促進する。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺の公共空間では、街灯の設置が必要という意見が挙がっている。また、建物の裏側の道路は暗い印象があるため、照明を整備することにより明るい空間を演出する必要がある。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋
上図：暗い印象を受けた建物の裏側の通り
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

ライトアップする！

○概要

安全性と快適性を提供しつつ、夜間の美観を損わない適切な明るさと配光を確保する。また、歩行者や自転車利用者のための照明と、車道の照明を適切に区分し、計画を検討する。加えて、デザインにおいては、住民や地域コミュニティと協働し、街の歴史や文化を反映したスタイルを選ぶことで、独自の雰囲気や醸し出し、視覚的な魅力を向上させる。

○課題

街路灯の設置や維持には高額なコストがかかるため、地方自治体や地域コミュニティにとって資金の確保が課題となる。加えて、地域文化、環境に適したデザインを選ぶ必要があり、専門的な知識と共同での意思決定が求められる。

○関連する制度や施策

①政策課題対応型商店街事業補助金

東京都の商店街に対する助成支援であり、商店街や区市町村単位の商店街連合会が対象で、環境、防災・防犯、福祉、物流、国際化対応、買物弱者支援対策などの分野での取り組みを支援する制度である。街路灯・アーケードの設置など環境事業に関連する取り組みも支援の対象となっており、最大1億2千万円までの補助が受けられる。

②市民活動支援事業

世田谷区における、様々な公共サービスの提供や地域の課題解決等のため、NPO等の市民活動団体と区が協働して実施する事業である。地域課題の解決につながるNPO等の取り組みに対して、世田谷区が活動経費として補助金を支給する。提案型協働事業には、「市民提案型協働事業」と「行政提案型協働事業」の2種類が存在する。

○参考になる事例

大阪府大阪市「ふくまる通り」

2019年5月15日に開業した、大阪市福島区にある再開発と同時に整備された通りである。JR西日本不動産開発と阪急阪神HDが共同で開発し、飲食店や医療機関が入居する新施設や、阪急オアシスの食品スーパー、ホテル阪神アネックス大阪などを含んでいる。この地域は以前、阪神本線の跡地として駐車場に利用されていたが、現在は梅田エリアに近い好立地として活性化されており、ナイトタイムには沿道店舗も一体的に通りの明るい環境を形成している。

図：沿道店舗と一体のライトアップ
(出典：https://www.hanshin.co.jp/fukumarudori57/)

図：整備前の様子

pattern language

27/28

27

の創出

大学生と地域の交流イベント

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#栄通り

三茶

9つの未来像との結びつき

2個性豊かな店が通りを彩るまち

8暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち

9誰もがまちづくりに関われるまち

○社会的背景

行政主導ではなく、民間主導でまちづくりを行う、エリアマネジメントが注目されている。その中で、大学等の教育機関及び人材は重要な主体として認識されている。教育機関との連携は、エリアマネジメントにおいて、新鮮なアイデアや客観的視点での評価を得ることができる等、事業の持続性を強化することに寄与することが期待される。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺には、テンブル大学や昭和女子大学等の大学がある。しかし、これらの大学と地域との連動感がないため、多様な人々の横断的な交流が見られない。多様な人々が関わり合う空間の実現が求められている。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

図. 人通りの少ない通りに位置する大学
(出典：Google Map <https://x.gd/COYWd>)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

大学生が関わるイベントの実施！

学祭会場化などで大学の学びを表現する場にする！

大学と連携した国際交流の場にする！

図. 学生の地域防災行事への参加
(世田谷地域「まちラボ」)
(出典：<https://www.city.setagaya.lg.jp/setagaya/001/009/d00203716.html>)

○概要

地域の課題を共同で特定し、大学の研究資源と地域のニーズを合致させることから始める。双方の連携による利点を明確化し、プロジェクトの目標を設定する。また、連携は一過性のものでなく、長期的な視点で持続可能なパートナーシップを目指す。定期的な情報交換や共同プロジェクトの実施により、大学と地域が相互に成長し、発展していく関係性を構築する。

○課題

大学と地域住民や地方自治体との間で、目的や期待値にズレが生じることがあるため、互いに信頼関係を構築することが重要である。また、地域に根ざした活動を行うための資金や人材の確保の手法の確立も課題である。

○関連する制度や施策

①商店街チャレンジ戦略支援事業（東京都）

商店街が直面する課題に対して革新的なアイデアや新しい取り組みを推進し、商店街の活性化を図るための支援を行う事業である。商店街の持続可能な発展と競争力の向上を目指し、地域経済の活性化に貢献することを目的としている。商店街各自が直面する具体的な課題に応じた支援を提供することで、商店街の再生に貢献するものである。

②官民連携まちなか再生推進事業

地方自治体と民間事業者が協力して中心市街地の活性化を図る取り組みを総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・国際競争力の強化を図る事業である。具体的な取り組みとしては、官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築やエリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、ビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築等である。

○参考になる事例

大阪府池田市「関関 COLORS」

産学官連携事業として栄町商店街と関西大学、関西学院大学により行われている、商店街活性化やにぎわい創出を目的として行われる学生による空き店舗活用事業である。チャレンジショップ等のイベント開催や、小学生に工作やお菓子作りを体験してもらう預かり事業、ウクレレやフラダンス等の教室を開講するための店舗貸し出しなどを行っている。学生たちは、地域社会に積極的に関わり、地元の活性化に貢献することを目指している。

図3. 空き店舗を活用したイベント実施

図4. イベントの様子
(出典：<https://kankwan-colors.amebaownd.com/>)

pattern language

28/28

28

による収入化

企業広告

空間タイプ

道路公園空地広場

期間

短期中期長期

関係者

行政区民事業者町会商店街大学

場所

#三茶パティオ

三茶

9つの未来像との結びつき

2個性豊かな店が通りを彩るまち

3暮らしの近くに「働く」があるまち

○社会的背景

行政主導ではなく、民間主導でまちづくりを行う、エリアマネジメントが注目されている。一方で、エリアマネジメントは、人材と資金の不足が課題となっている。そこで、公共空間において企業広告を掲載し、その掲載料をまちづくりの資金として活用する広告業が注目されている。資金調達だけでなく、地域産業の活性化にも寄与することが期待できる。

○三軒茶屋駅周辺エリアの課題

三軒茶屋駅周辺では、イベントや社会実験が実施されているものの、実施回数が少ないため、短いスパンでの定期的な開催が求められている。このことから、継続的に実施可能な資金調達の仕組み構築が必要である。

※ハイライトはプレイスゲーム意見の抜粋

上図. 視界に入りにくい壁面の広告
(出典：プレイスゲーム実施時の撮影)

○プレイス・ゲームで出たアイデア

企業広告の場を設けまちづくりの資金にする！

図. 電光掲示板による広告掲載
(三軒茶屋ビジョン)

○概要

宣伝効果の期待できる地域内の掲載場所、掲載方式を、地元コミュニティと企業、行政の協働のもと検討する。計画策定においては、広告掲載までの手続きを整理し、掲載料のまちづくりへの活用方法についても十分に検討する。加えて、定期的な評価とフィードバックを行い、事業を継続的に改善することで、広告事業の拡大を図る。

○課題

事業開始時の一定の資金確保が必要であることや、地元住民や事業者、行政間での利害の一致を図る必要があることから、これらの各主体が密に連携し、事業持続性が確保された計画の立案が必要不可欠である。

○関連する制度や施策

①道路占用許可の特例（都市再生特別措置法）

通常、道路外に余地がなくやむを得ない場合に限り、許可をする道路占用における無余地性の基準について、区市町村がまちのにぎわい創出等のために必要であるとして、都市再生整備計画に位置づけた施設等は、一定の要件を満たすことで無余地性の基準の適用が除外されるという制度である。通常の道路占用より簡易な手続きで許可が得られる。

②屋外広告物を活用したエリアマネジメント支援事業（東京都屋外広告物条例）

本事業は、エリアマネジメントを行う団体が、公益活動を目的とする場合は、東京都屋外広告物条例に基づく特例許可により規制を緩和し、良好なデザインの広告を掲出することが可能となる。エリアマネジメント事業については、広告収入を道路清掃や街路灯の維持管理、イベントの開催等に充当する仕組みの支援を行っている。

○参考になる事例

静岡県浜松市「浜松駅前エリアマネジメント広告」

浜松市の協力のもと、浜松まちなかマネジメント株式会社が実施する、J R浜松駅からバスターミナル地下に及ぶ公共空間において、収益を地域における公共的な取り組みに充当することを目的とした広告事業である。7ヶ所で広告事業を展開し、広告収益の一部を浜松市の中心地活性化に役立てている。具体的な掲出場所、掲出までの具体的な手続きフロー等、民間事業者が参入しやすくなるような情報を HP 上で公開している。

図. 柱巻き形式の掲出

図. 階段ステップの掲出
(出典：<https://media.entetsu.co.jp/areamanagement/>)

3-4. 場所ごとのアクションのパターン

場所ごとのアクションのパターン

「アクションの選択肢を示すパタンランゲージ」は、プレイス・ゲームで参加者から集まったアクションのアイデアを体系的に整理し、作成した。本パタンランゲージはA4版でまとめてあるが、左上のグレーに着色された部分で切り取り、28枚のアクションカードとして利用することで、プレイスメイキングの検討に向けた整理するのに役立つ。

A：三茶パティオ

多くの人が利用するが、快適性や印象性に課題がある。噴水広場としての活用が進まず、喫煙スペースの近接や視認性の低さが問題とされている。短期的には、イベント開催による滞留空間の創出が重要であり、噴水や音楽イベントを実施し「イベント会場」としての認知を高め、長期的にはモニュメント設置などで印象性向上を図り、喫煙スペースの移設やトイレ清掃の強化が必要であると考ええる。また、改善には東急や広告会社との連携が求められる。

本節では、場所ごとにできるアクションを検討する場面を想定し、8つの場所ごとにアクションカードを並び替えることで、具体的な場所でのアクションを示す。



図3-9. 三茶パティオの様子

02 座る場所の設置 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #三茶パティオ#キャロットタワー広場 #キャロットタワー裏通り #三角地帯前面の道路 9つの未来像との結びつき	07 文化的事業の実施 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #三茶パティオ 9つの未来像との結びつき	08 イベントの実施 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #三茶パティオ#キャロットタワー広場 #キャロットタワー裏通り 9つの未来像との結びつき	09 地域情報発信の場 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #三茶パティオ#三軒茶屋ふれあい広場 #キャロットタワー裏通り 9つの未来像との結びつき
11 喫煙所の移設 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #三茶パティオ 9つの未来像との結びつき	23 路上ライブの許可 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #三茶パティオ 9つの未来像との結びつき	28 企業広告による収入化 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #三茶パティオ 9つの未来像との結びつき	

B：茶沢通り

道路幅員が狭いことによって、交通機能を十分に果たせておらず、看板や植栽、街路灯などの老朽化や統一感の無さから、ハード面での整備が必要である。短期的には、デザイン性のある看板や案内板の設置による自転車の利用マナーの周知や、現在行われている歩行者天国時に様々なアイデアの取り組みを試し、長期的には、駐輪場を新設、お店のセットバックなどにより滞留できる空間の整備を行う必要があると考える。



図3-10. 茶沢通りの様子

01 セットバックによる滞留空間の創出 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り #キャロットタワー裏通り 9つの未来像との結びつき	03 イベント実施が可能な広場の整備 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り 9つの未来像との結びつき	04 社会実験の滞留空間 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り #キャロットタワー裏通り 9つの未来像との結びつき	13 自転車の専用道整備 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り 9つの未来像との結びつき
15 歩行者天国化 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り #キャロットタワー裏通り 9つの未来像との結びつき	16 車両規制の時間の変更 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り 9つの未来像との結びつき	17 駐輪場の整備 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り 9つの未来像との結びつき	19 花や木の植える 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #キャロットタワー裏通り #三角地帯前面の道路#茶沢通り 9つの未来像との結びつき
20 無電柱化整備 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り 9つの未来像との結びつき	24 路地の活用 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 #茶沢通り 9つの未来像との結びつき		

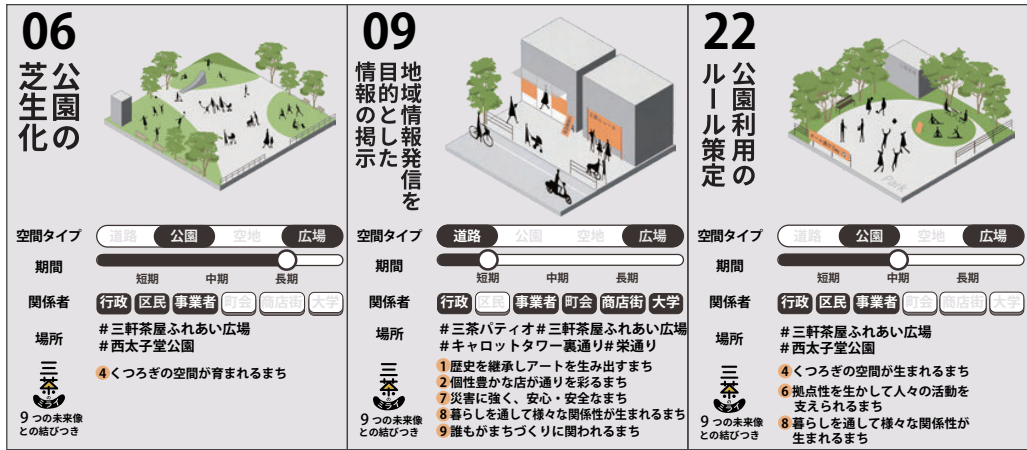
3-4. 場所ごとのアクションのパターン

C：三軒茶屋ふれあい広場

緑やベンチが少なく、ボール遊びなど子供の遊びも制限されているため、イベントのない時は広場を有効活用できていないといった問題がある。短期的には、DIY でイスをつくることや、活動やイベント情報を書き込む黒板を設置、長期的には、滞留空間の創出や利用しやすい環境を整え、コンクリートの広場から芝生広場に再整備することや、BBQ 施設をつくり地域の人々や小学生も利用できる広場とする必要があると考える。



図3-11. 三茶ふれあい広場の様子

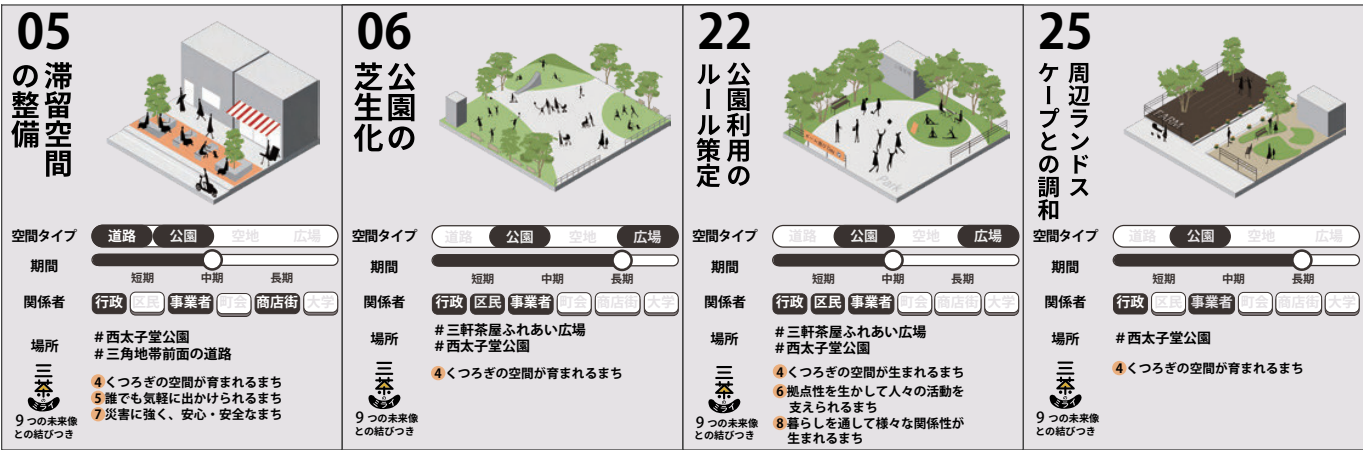


D：西太子堂公園

トイレや案内板等の老朽化、また街灯が少ないことから夜間は近寄り難いといった問題がある。短期的には、電車の見える公園として魅力を広げるため、街灯やトイレ等の施設の改修、駅弁フェスや電車ハロウィン等のイベントの開催を行い、長期的には、子供と電車を眺められる公園とするため、カフェの設置、線路の緑化、隣接する畑や遊歩道を公園の一部とする必要があると考える。



図3-12. 西太子堂公園の様子

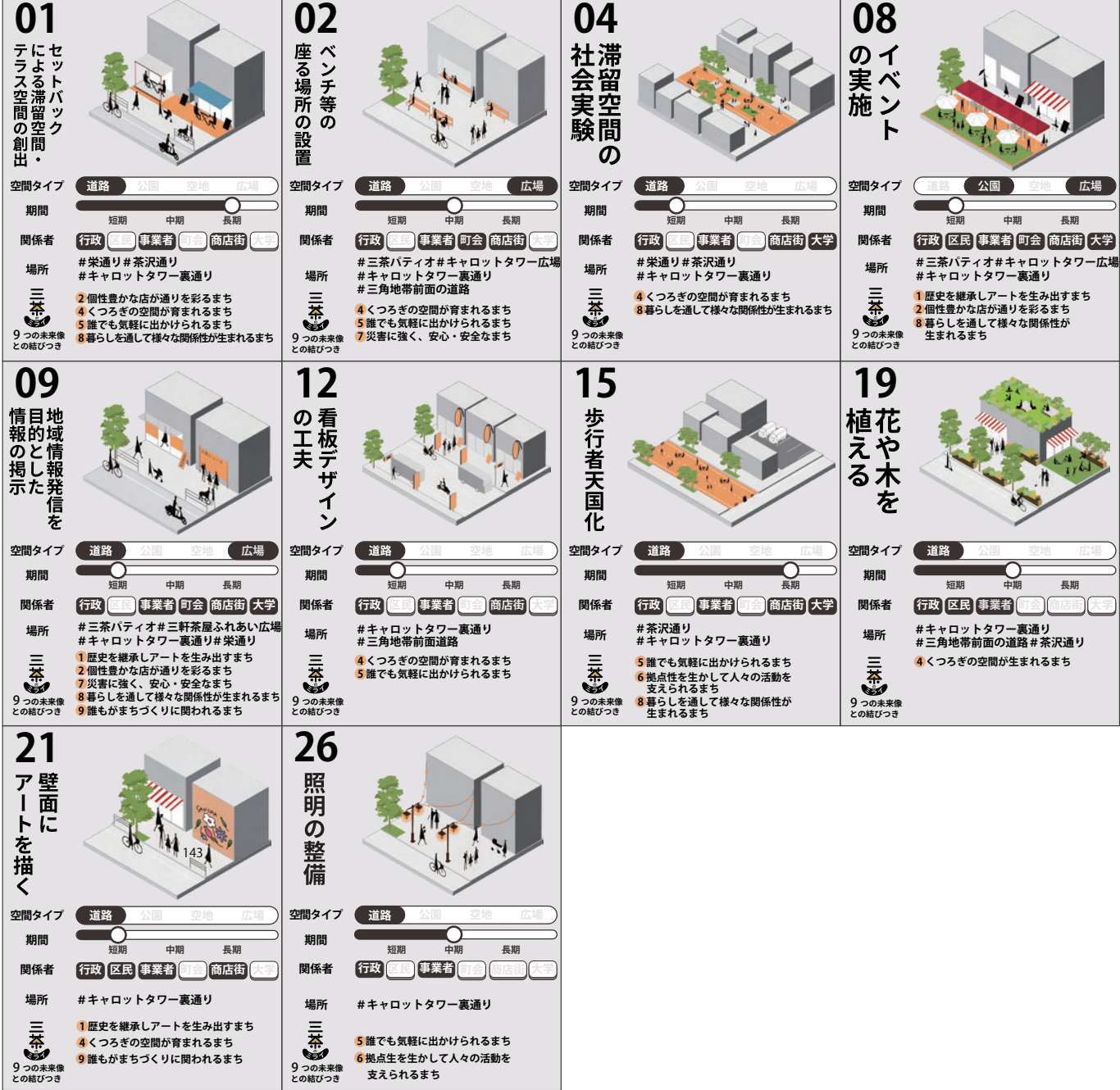


E：キャロットタワー裏通り

車通りが多く、交通優先の通りとなり、椅子や植栽が少ないことや、隣接するキャロットタワーの壁面が汚れているといった問題がある。短期的には、案内板の設置や、壁面の清掃、椅子・テーブルの設置、植栽の充実を行い、長期的には、滞留時間を創出するために、歩行者天国化や駅周辺で開催するヨサコイや阿波踊りのイベントに訪れた人をキャロットタワー裏通りに繋げることで、エリア全体の回遊性を高める必要があると考える。



図3-13. キャロットタワー裏通りの様子



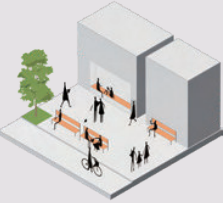
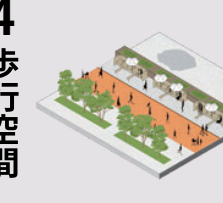
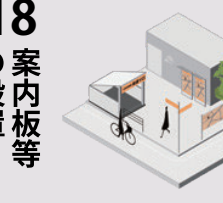
3-4. 場所ごとのアクションのパターン

F：キャロットタワー広場

座る場所や緑がなく滞留空間が生まれていない、移動のみの空間となっているといった問題がある。短期的には、飲食店の前にイスやテーブルを置くことで、滞留空間の創出、案内板を充実させ、長期的には、広場に面する店舗を飲食店のような広場活用も期待できるものに整理することや、歩行空間と滞留空間を棲み分けて整備する必要があると考える。



図3-14. キャロットタワー広場の様子

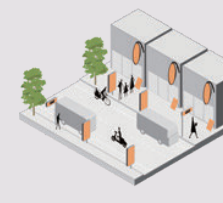
02 座る場所等の設置	08 イベントの実施	14 歩行空間の整備	18 案内板等の設置
 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき

G：三角地帯全面の道路

狭幅員かつ、交通の妨げとなるようなものや場所が多いことから、周辺一体で滞留空間がないといった問題がある。短期的には、歩行者空間、滞留空間を整備し、長期的には、建物をセットバックさせることで、民間空地を活用する必要があると考える。



図3-15. 三角地帯全面の道路の様子

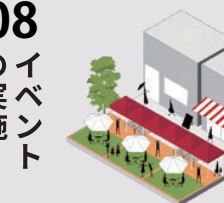
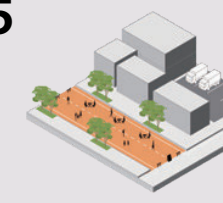
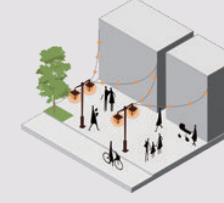
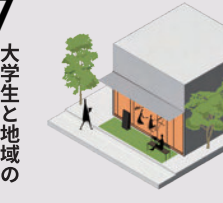
10 沿道店舗の商業誘致	12 看板デザイン	18 案内板等の設置	19 花や木を植える
 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき

H：栄通り

狭幅員かつ、自転車の交通量が多く人々が集まれる空間がなく、通り一体でのコミュニティが感じられないといった問題がある。短期的には、歩行者の安全を確保することや駅で通りの存在を認知させること、商店街としてのイメージを作ること、多様な人々を関わり合わせ、長期的には、通りの歩行者天国化に加え、ベンチなどの滞留機能を設置することや、荷捌き車や自転車の通行を制限する必要があると考える。



図3-16. 栄通りの様子

01 セッバックによる滞留空間の創出	02 座る場所等の設置	04 滞留空間の社会実験	08 イベントの実施
 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき
09 地域的情報の目録的提示	12 看板デザイン	15 歩行者天国化	19 花や木を植える
 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき
21 壁面にアートを描く	26 照明の整備	27 大学生と地域の交流イベントの創出	
 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	 空間タイプ 道路 公園 空地 広場 期間 短期 中期 長期 関係者 行政 区民 事業者 町会 商店街 大学 場所 三茶 9つの未来像との結びつき	